

第8章 関連文化財群

市内には、たくさんの歴史文化資源が散らばっています。それぞれを時代や自然環境と合わせて考えてみると、つながっていて、5つのストーリーに基づいて整理することができます。これから、その5つを紹介し、保存・活用のために何をしていけばよいのか考えます。



1 関連文化財群に関する事項

1-1 関連文化財群について

伊那市にある歴史文化資源は、一見すると無関係に散らばっているように見えますが、個々の資源の持つ要素や時代背景を整理すると、共通の要素やつながりがあることが分かります。有形・無形、指定・未指定に関わらず、地域にある様々な歴史文化資源を歴史的・地域的な関連性(ストーリー)に基づき、一定のまとまり(群)として捉えたものが「関連文化財群」です。複数の歴史文化資源を一体的に捉えることで、今まで明らかでなかった新たな価値を見出すことができ、ストーリーとして語ることで、伊那市の歴史文化への理解が進み、より身近なもの、魅力的なものとして感じることができます。そこで、伊那市の歴史文化の特性を踏まえ、次のような基本的な考え方のもとに関連文化財群を設定します。なお、関連文化財群や構成する歴史文化資源は、本計画作成時点のものであり、今後の調査・研究の状況に応じて、必要により見直しを行います。

1-2 関連文化財群の設定の考え方

伊那市の関連文化財群の設定や群を構成する歴史文化資源の抽出は、以下の点を踏まえて行いました。

(1) 関連文化財群の設定に関わること

- ・伊那市を語る上で欠かせない特徴的な自然環境と、その環境下で育まれた歴史文化資源を、類型にとらわれず取り上げ、伊那市らしさを表すストーリーとします。
- ・地域特性に応じた5つの関連文化財群を大テーマとし、今後の具体的な調査・保存・活用を進めやすくするためテーマの細分化を行い、中テーマ、小テーマを設定します。
- ・それぞれのテーマの中心となる歴史文化資源を「主人公」、歴史文化資源が存在する地域を「ストーリーの舞台」として一覧表に整理します。

(2) 関連文化財群を構成する歴史文化資源に関わること

- ・それぞれの群を理解する上で、つながりが分かりやすく、魅力的で共通理解が得やすいものを取り上げます。
- ・市民に親しまれてきた歴史文化資源の中で、特に保存・活用が必要なもの(現在、保存・活用の取組がなされているもの)や今後の調査・研究が期待されるものを取り上げます。
- ・市民ばかりでなく、伊那市を訪れる多くの人に親しまれてきた市の花「さくら」に関わる資源を、可能な範囲でそれぞれの関連文化財群の中に位置付け、日本一の桜の里「伊那市」を感じることができるようにします。

1-3 伊那市の関連文化財群

前項で述べた関連文化財群の設定条件に基づき、伊那市の歴史文化の特性(第3章第3節を参照)を踏まえ、5つの関連文化財群を設定します。

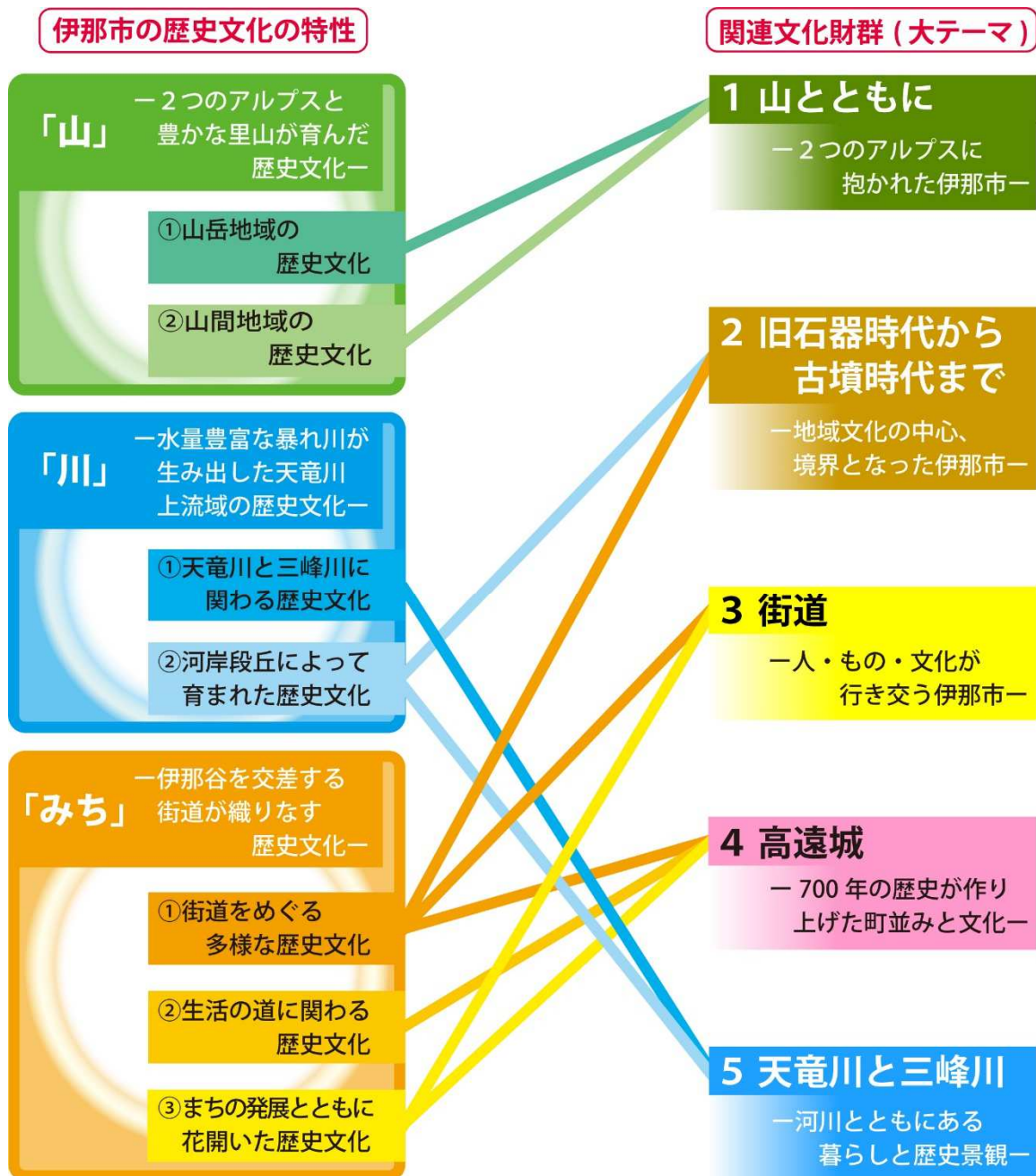


図. 伊那市の歴史文化の特性と関連文化財群の関係

次ページ以降に、各関連文化財群のストーリー概要や構成する歴史文化資源を記載します。構成する歴史文化資源は、現時点までに把握された主な資源を載せていますが、今後、把握調査の進展に伴い、新たな資源が見出された場合には、追加し充実させていきます。

それぞれの関連文化財群の保存・活用の課題、方針、措置は後述のとおりですが、関連文化財群全体に関わるものとして、前章で掲げた措置のうち、事業番号 48「歴史シンポジウムの開催」や49「関連文化財群の周遊ルートの設定と公開」に取り組み、その考え方を一般に広く周知していきます。

2 関連文化財群 1

2-1 ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群 1 山とともに —2つのアルプスに抱かれた伊那市—

ストーリー

東西にそびえる南アルプスと中央アルプスの山なみは、ダイナミックな地球の活動により形づけられました。海底の堆積物^{たいせきぶつ}が急速に隆起^{りゅうき}して出来上がった南アルプスの周辺は、海の記憶を留める地域です。海由来の岩石・石灰岩の岩脈が走り、石灰岩地帯特有の希少な植物が生育するほか、水に溶け出した成分がミネラル満点の作物を生み出しました。海洋生物の化石も出土しています。

南アルプス山麓^{はっせ}の長谷地域には、日本最大級の断層である中央構造線をはじめ、複数の断層が走っています。浸食^{しんしょく}作用で生まれた山深い谷を舞台に、政権を追われた平氏一族や南朝の皇子らが勢力回復をねらって活動を繰り広げたこともありました。

古代より信仰の対象であった山は、人々の祈りに関わる様々な歴史文化を生み、雄大な山岳景観は、私たちにとって畏敬^{いけい}の念を抱いて望む心の風景でもあります。

明治時代以降、レクリエーションとしての登山が始まると、より登りやすく、より安全に山を楽しむための施設づくりが進められました。中央アルプスでは大正時代の学校登山での遭難^{そうなん}事故を契機とし、将棋頭山^{しょうぎがしらやま}の直下に頑丈な小屋が整備され、南アルプスでは竹澤長衛^{たけざわちやうゑい}が多くの登山道を開拓し、山小屋の建設にも尽力しました。これらは現在の山岳エリアの発展に欠かせない歴史です。

私たちの祖先は長い間、豊かな山の恵みを活かしながら、山と共に生きてきました。山とは切っても切れない関係です。時には深山に入り山林資源を手に入れ、一方で農地を荒らす獣と闘い、山とのつながりが地域の経済を支え、私たちの足元にある歴史文化を育んできたのです。

テーマの説明

中テーマ 1 南アルプスを形づくる大地の物語

南アルプス周辺では、ダイナミックな地球の活動により、複雑で特徴的な地質構造が生み出されました。ここに生きる人々や動植物は、この土地ならではの地質構造や地形をうまく活かしながら歴史文化を紡いできました。

〈小テーマ〉

・中央構造線

市内には、日本最大級の断層である中央構造線を間近で観察できる場所や、中央構造線の影響で生まれた深い谷があります。古くからこの谷筋を行き来する人々が遺した歴史文化資源があります。

・戸台層^{とだいそう}と化石

一億年以上昔の地層である戸台層からは、中生代白亜紀^{ちゅうせいだいはいく あき}の海洋生物の化石が出土し、大地の成り立ちを知ることができます。

・守屋累層^{もりや るいそう}

守屋山周辺の守屋累層からは貝の化石などが出土し、海底火山の隆起でこの地域の大地が造られたことが分かります。

- ・シナノコザクラと南アルプスの貴重な動植物

南アルプス周辺は、標高が高い上に、様々な種類の岩石が帯状に分布しています。寒冷的な気候やそれぞれの地質に適した動植物が生息しています。

- ・隆起と侵食を物語る地名

南アルプス周辺には、大地の隆起と侵食の結果を示す地形が多く見られ、こうした地形や地質の特徴を表した地名が遺ります。

- ・ジオのめぐみ

南アルプス特有の地質の恩恵を受けて、私たちは暮らしてきました。地域の特産品として知られるものも、実は地球の活動の結果から生み出されたものです。

中テーマ 2 中央アルプスと人々との関わり

中央アルプス周辺には、多くの歴史文化資源があります。里山から高山帯まで、多種多様な植物が生育しているほか、山頂付近や山麓に遺る歴史文化資源を通して、山と人との関わりを知ることができます。

〈小テーマ〉

- ・山域の植物と人との関わり

山腹の高山帯や山麓の寺社有地などには、手が入りにくい環境だったからこそ遺された希少植物や植物の群落があります。

- ・信仰の山から学校登山まで

山は、古くは信仰の対象で、^{きょうがたけ}経ヶ岳の山麓に建つ寺院には、信仰にまつわる多くの歴史文化資源が伝わります。近代に入ってから山は、信仰を離れ、登ること自体を楽しむ場になりました。山頂付近には、大正時代に整備された建物遺構もあり、山と人との関わりの変化を知ることができます。

中テーマ 3 豊かな山のめぐみと里山の暮らし

里山周辺には、豊かな山の恵みによって成り立ってきた暮らしがありました。山の権利を守り、山から得た資源を利用しながら生きてきた人々の暮らしは、今の私たちの暮らしにつながっています。

〈小テーマ〉

- ・山持ちが支えた寺社と芸能文化

山の資源は地域経済を支え、麓の集落には多くの人が暮らしました。高い経済力を背景に、集落の寺社には立派な彫刻を持つ建物や、優れた石造物が造られました。農村歌舞伎や舞台からは、山間の地域で花開いた芸能文化の一端をうかがうことができます。

- ・入会権を守る

里山の入会地は、肥料や飼料に使う草や、^{たきぎ}薪などを得るために人々が共同利用していた場所でした。生活を守るために入会地の資源は欠かせず、他所の入会権を侵すことは許されないことでした。

・広大な国有林や林業

南アルプスの西麓は、江戸時代は高遠藩の藩有地、明治時代以降は国有地になっており、厳しい統制を受けながらも林業が盛んに行われてきました。周辺にはその様子をうかがい知ることができる歴史文化資源が遺ります。

・狩猟・鳥獣対策

山に暮らす生き物と人々の関わりも、地域の歴史文化を語る上で欠かせません。人々はクマ、イノシシ、シカ、ヤマドリなどの野生鳥獣を狩り、毛皮や肉、内臓を余すことなく使ってきました。また、人里に下りた獣から農地を守るための施設を造りました。

・そば

かつて、稲作に向かない山間地の主食は、雑穀が中心でした。中でも焼畑で作られるソバは、日常的には焼き餅やけえもち(そば粉をお湯で練ったもの)として、ハレの日にはそばきりとして食べられてきました。特産品として徳川将軍への献上品に用いられることもありました。

・山と人との関わりを知る地名

山中に遺る地名の中には、かつての産業を示す地名があります。山の資源を利用してきた人々の生活がしのべれます。

・昆虫食の文化

豊かな里山の資源を背景に、地域独特の昆虫食の文化が生まれました。昆虫は、身近でとれる栄養価が高いタンパク源であり、古くから食べられてきましたが、現在では食材を採る過程を楽しむ人も多くいます。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
南アルプスを 形づくる 大地の物語	中央構造線	溝口露頭 〈記念物・地質鉱物〉	長谷溝口	中央構造線の地質境界に沿って珪長質岩脈が貫入している様子が観察できる。
		板山露頭 〈記念物・地質鉱物〉	高遠町長藤	中央構造線の地質境界が観察でき、左横ずれ断層運動の様子が分かる。
		分杭峠 〈記念物・地質鉱物〉	長谷市野瀬	V字に切れ込んだ中央構造線の谷を利用した峠。
		【市】御山の遺跡 〈記念物・史跡〉	長谷溝口	断層活動によってできた谷は、直線的で交通に便利な上、山深いことから、政権を追われた人々が盛んに利用した。沿線には足利尊氏に敗れた南朝方の後醍醐天皇の皇子、宗良親王の墓や姿を刻んだ像など、南朝ゆかりのものが多く伝わる。
		【市】宗良親王御尊像 〈有形・美術工芸品・彫刻〉	長谷溝口	
		【市】小松氏先祖の墓 〈記念物・史跡〉	長谷浦	
	戸台層と化石	アンモナイト・三角貝 〈記念物・地質鉱物〉	長谷黒河内	山中の戸台層からは中生代・白亜紀の海洋生物の化石が出土する。かつて海底であった場所が隆起したことを表している。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
南アルプスを 形づくる 大地の物語	守屋累層	カキなどの貝の化石 〈記念物・地質鉱物〉	高遠町藤澤	守屋山の新生代第三紀層の守屋累層からは貝の化石が出土する。海底火山の隆起により形作られた日本列島の成り立ちが分かる。
	シナノコザクラと 南アルプスの 希少な動植物	シナノコザクラ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	石灰岩の岩場に生える南アルプス特産のサクソウ科の植物で、長野県特別指定希少野生種に指定されている。
		トダイアカバナ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	河原や石灰岩地に生育する絶滅危惧種で、戸台にちなんだ名前がつけられている。
		チチブリンドウ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	他地域ではほとんど見られないリンドウ科の植物。
		ヒメマツハダ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	八ヶ岳と南アルプス北部だけに分布するトウヒの仲間、絶滅危惧種に指定されている希少植物。
		ヒメバラモミ 〈記念物・植物〉	長谷南アルプス山域	八ヶ岳と南アルプス北部だけに分布する日本固有種で、絶滅危惧種に指定されている希少植物。
		【国】ライチョウ 〈記念物・動物〉	長谷南アルプス山域	高山帯に生息し、南アルプスは世界の生息域の南限にあたる。
		【国】ニホンカモシカ 〈記念物・動物〉	全域	山岳地帯に生息する特別天然記念物で、近年は里山でも見られる。
	隆起と浸食を 物語る地名	「白崩岳(白崩山)」 〈地名〉	長谷南アルプス山域	東駒ヶ岳(甲斐駒ヶ岳)の別称。マグマが地下で固まった花崗岩が隆起した山であり、白く見える上に崩れやすい。
		「赤河原」 〈地名〉	長谷黒河内	赤く酸化した花崗岩の岩石が広がる河原。
		「幕岩」 〈地名〉	長谷黒河内	中央構造線に沿って南北に走る日本最大の石灰岩地帯の岩盤が現れた場所で、白い幕のように見えることからついた地名。
		なぎ地名 〈地名〉	長谷・高遠 ほか	崩れやすい急峻な斜面の周辺につけられている地名で、「あかなぎ」、「なぎざわ」、「おおなぎ」などがある。
	ジオのめぐみ	川下り米 〈地域の特産品〉	三峰川流域の伊那地区	南アルプスの石灰岩質から染み出したミネラル分を多く含む水で育った米で、美味しいと評判のブランド米。
中央アルプスと 人々との関わり	山域の植物と 人との関わり	マツハダ 〈記念物・植物〉	中央アルプス山域	亜高山帯に見られる常緑針葉樹で、希少種。
		【市】仲仙寺周辺の植物群落 〈記念物・植物〉	西箕輪羽広	フユノハナワラビ、カタクリの大群落をはじめ、限られた範囲内に 300 種近くの植物が見られる。
		経ヶ岳自然植物園 〈記念物・植物〉	西箕輪羽広	入会地の草刈場として利用されていた所を再整備した場所で、豊富な植物や経ヶ岳山麓一体の森林を代表する樹木が自然林の名残りとして見られる。
	信仰の山から 学校登山まで	仲仙寺と十一面観世音立像 〈有形・美術工芸品・彫刻〉	西箕輪羽広	経ヶ岳信仰と一体となった仲仙寺には、慈覚大師が霊木から刻んだという観音像が伝えられている。
		【国登録】西駒山荘石室 〈有形・建造物〉	伊那(竜西) 中央アルプス山域	大正時代の学校登山での遭難事故を契機につくられた山小屋。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
豊かな 山のめぐみと 里山の暮らし	山持ちが支えた 寺社と芸能文化	【国】熱田神社本殿 〈有形・建造物〉	長谷溝口	山林資源に恵まれた溝口村の人々が協力し、江戸時代中期に建てられた建築。色彩豊かで豪華な彫刻が施されている。
		【市】熱田神社舞宮 〈有形・建造物〉	長谷溝口	熱田神社境内にあり、奉納神楽や芝居が行われた建物。
		【市】中尾歌舞伎 〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷中尾	江戸時代、旅芸人が伝えた歌舞伎を真似て、村人たちが行うようになった農村歌舞伎。
		【市】経塚原の経塚と舞台 〈記念物・遺跡〉	長谷杉島	杉島と岩入を結ぶ山中に、峠の難所の無事を祈り大般若経を納めた経塚があり、近くの秋葉神社境内には、地芝居の舞台がある。
		【市】宇津木の薬師堂 〈有形・建造物〉	長谷杉島	鎌倉時代から続く薬師堂で、現在の建物は宝暦4年(1754年)の建築。戸倉薬師とも呼ばれている。
		【市】宇津木西国三十三観音 〈有形・石造文化財〉	長谷杉島	江戸時代後期の文化人(池上休柳、岡村菊叟、渋谷藤兵衛)が製作に関わり、入野谷に住む百数十名の寄付で造られた。
		【市】桑田薬師堂の枝垂桜・香時計 〈記念物・植物〉 〈有形・工芸品〉	長谷溝口	分杭峠を望む地にある薬師堂には、樹齢数百年という枝垂桜があり、昔は高貴な人の花見が行われたという。
	入会権を守る	【市】芝平山絵図と絵図干し行事 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町上山田芝平・藤澤・長藤ほか	入会権をめぐる、高遠領の村々と高島領の村々が争った際に作られた絵図で、現在も絵図の確認行事が続けられている。
		「草刈り平」、「くさかりば」 〈地名〉	長谷溝口・市野瀬・黒河内ほか	水田の肥料である刈敷を刈ったり、馬の餌となる草を刈ったと伝わる地名。
		「百駄刈」 〈地名〉	西春近小出	馬の背に乗せる草や茅が百駄も刈ることができたと伝わる地名。
	広大な国有林 や林業	森林鉄道跡 〈記念物・遺跡〉	長谷黒河内・浦	国有林から伐り出した木材を運搬したほか、住民の足としても使われた鉄道の跡。
		【市】南郷峠の松並木 〈記念物・名勝地〉	長谷溝口	南郷集落最寄りの峠で、山仕事に行くための道が通っていた。現在は徒歩でしか行くことができない。
		「よきとぎ」 〈地名〉	高遠町小原・長谷非持・西箕輪上戸	山作業で使う斧や鉈を沢の水辺で刃研ぎをしたり、休憩をした場所の地名。
	狩猟・鳥獣対策	【市】孝行猿の民話 〈民俗・無形の民俗文化財〉	長谷柏木	鉄砲猟師と母猿を撃たれた子猿の物語。
		【市】諏訪形の猪垣跡 〈記念物・遺跡〉	西春近諏訪形	イノシシの食害から農地を守るために造られた土手垣。江戸時代にはすでに作られていた。
		「鳥矢場」 〈地名〉	長谷中尾	狩猟の場所と伝えられる地名。
		ジビエ料理 〈地域の特産品〉	全域	クマ、イノシシ、シカなど野生の鳥獣の肉を利用した料理。
	そば	「オソバの平」 〈地名〉	長谷非持	山の中腹を3段に開拓して焼畑を行い、そばを収穫したという地名。
		「殿畑」 〈地名〉	長谷非持	高遠藩の殿様に献上するそばを収穫したと伝わる地名。
	山と人との関わり を知る地名	「炭鎌(すんがま)」など 〈地名〉	美篤芦沢	炭窯があったとされる場所の地名。
	昆虫食の文化	すがれ追い(地蜂とり)と蜂の子 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	すがれ(地蜂)の足に目印をつけて追い、地中の巣を見つけて掘り出した後、巣の中の蜂の子を取って佃煮などにして食べる。
		イナゴ 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	豊かな里山資源を背景に広がった水田でとれたイナゴは、人々の貴重なタンパク源となった。

テーマを構成する歴史文化資源



ライチョウ
(国指定特別天然記念物)



トダイアカバナ



幕岩



図. 構成資源の位置

にしこまさんそういしむろ
西駒山莊石室(国登録有形文化財)

シナノコザクラ



とだいそう
戸台層出土アンモナイト



長谷森林鐵道跡



すわがた ししがきあと
諏訪形の猪垣跡(市指定文化財)



なか お か ぶ き
中尾歌舞伎(市指定文化財)



中央構造線(溝口^{みぞぐち}露頭^{ろうとう})



小松氏先祖の墓(市指定文化財)



あつた じんじゃほんでん
熱田神社本殿(国指定重要文化財)



くわ た やく し どう し だれ ざ くら
桑田薬師堂・枝垂桜
(市指定文化財)

2-2 関連文化財群1の保存・活用に関する課題

- ・地形・地質や植物など自然に関わる資源が多いため、気象や自然環境の変化による影響を受けやすい側面があります。
- ・社会構造の変化により、かつては豊かであった山村地域が、現在は過疎と高齢化が進む地域となっており、歴史文化資源を維持管理する担い手が不在、もしくは不足するなど、保存・継承に不安があります。

2-3 関連文化財群1の保存・活用に関する方針

- ・周辺環境や歴史文化資源そのものの変化に、早期に気づき対応できるように、南アルプスユネスコエコパーク、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの取組や戸台の化石保存会等と連携しながら、多くの市民が歴史文化資源に触れ親しむ機会を提供し、見守ることができる人々を増やします。
- ・地域の代表的な無形の民俗文化財である中尾歌舞伎について、保存団体や後援会、学校等と連携しながら保存・継承に取り組みます。

2-4 関連文化財群1の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R 7 5 10	中期 R 11 5 13	後期 R 14 5 16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群1-1 (措置6 再掲)	地質・鉱物・化石調査	戸台の化石保存会や南アルプスジオパーク関係団体等が中心となり、地質・鉱物・化石調査を継続的に実施する。	継続				○	◎	○	○ 教生	市費 団体等
群1-2	南アルプス長谷ビジターセンターの充実	南アルプスユネスコエコパーク、南アルプスジオパークの紹介や展示内容を充実させ、山岳観光や周遊ルートの活用につなげる。	継続					○		◎ 商観	市費
群1-3	ジオサイト見学会	ジオガイド養成講座などと連携し、中央構造線などの断層の露頭の見学会や地震資料の勉強会などを行い、地域の成り立ちを知る機会を提供する。	継続				○	○	○	◎ 商観	市費 団体等
群1-4	ジオガイド養成講座の実施	南アルプスジオパークのジオサイトの魅力を伝えるガイドの養成を行い、ジオツーリズムの担い手を養成する。	継続					○	○	◎ 商観	市費 団体等

3 関連文化財群2

3-1 ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群2 旧石器時代から古墳時代まで ―地域文化の中心、境界となった伊那市―

ストーリー

天竜川と三峰川の合流地点にあり、広い段丘面と扇状地によって構成される伊那の地は、谷筋や河川を通じて様々な物や文化が集まり、交わる場所でした。古くは旧石器時代、日本で最も美しいといわれる神子柴遺跡出土の尖頭器や石斧などの石器は、人々の移動に伴い伊那へと集められたものでした。縄文時代には顔面付釣手形土器を始め、日本を代表するような素晴らしい縄文芸術が生み出され、縄文時代後期・晩期の寒冷化を何とか乗り越えようとした人々の生活の跡も遺跡には遺っています。そして弥生時代の初めには、天竜川をさかのぼり稲作が伝わった事も最近の発掘調査で確かめられました。やがて定着した弥生文化は、その後の古墳時代の礎となり、ヤマト王権と深いつながりがある人物の墓であった前方後円墳が南信地方で最も早く造られることとなりました。市内に遺る多くの遺跡や出土資料は、旧石器時代から古墳時代にいたるまで、この地の先人達が、時には地域の中心となり豊かな文化を育んできたことを物語ってくれます。

テーマの説明

中テーマ 1 旧石器時代から見られる人々の暮らし

旧石器時代の人々の暮らしの痕跡が、市内全域で見られます。段丘端部や山麓、山頂付近にも遺跡があり、当時の人々が送っていた移動生活の一端がうかがえます。

〈小テーマ〉

・戸台秋葉洞窟

戸台秋葉洞窟は、人里離れた山中の、切り立った崖の中腹にある鍾乳洞です。その中から旧石器人が食べた大型動物バイソンの骨や、イノシシ、カモシカ、アナグマの骨など約70点が出土しています。旧石器人の暮らしの一端を知ることができる洞窟です。

・神子柴遺跡

日本で最も美しいと称される神子柴型の尖頭器と石斧が出土した遺跡です。全国各地で神子柴型の石器は出土しますが、神子柴遺跡のように尖頭器と石斧が一緒にたくさん出土した事例はなく、なぜこのように石器が遺されたのか、今も研究対象とされている遺跡です。

中テーマ 2 縄文文化が花開いた集落の繁栄と衰退

縄文時代中期、森の恵みが豊かな伊那谷を含む中部高地では、人口も増え、当時の社会の繁栄を表すような美しく迫力のある模様をつけた縄文土器が作られました。しかし、その後、寒冷化が進んだことで、厳しい環境の中で暮らさなければならなくなります。市内の遺跡や出土品の状況から縄文時代の繁栄と衰退が見えてきます。

〈小テーマ〉

・三ツ木遺跡

三ツ木遺跡では、縄文時代早期の小規模な竪穴建物2軒と、その周辺に石組み炉2基と

30 基を超える焼けた集石が出土したことから、キャンプサイトの遺跡と考えられています。遺跡内で見つかった完形の縄文時代早期の押型文土器^{おしがたもん ど き}も、全国的に注目されました。

• 御殿場遺跡^{ごてんば い せき}

国指定の重要文化財、顔面付釣手型土器が出土した御殿場遺跡は、県指定の史跡になっています。発掘調査では 22 軒の竪穴建物が確認され、天竜川左岸の市内最大規模の縄文時代中期の集落遺跡です。

• 月見松遺跡^{つき みまつ い せき}

市指定の史跡月見松遺跡では、3 度の発掘調査で合わせて 107 軒の縄文時代中期の竪穴建物がみつかっています。天竜川右岸の市内最大規模の縄文時代中期の集落遺跡です。

• 島崎遺跡^{しまざき い せき}・原遺跡^{いはら い せき}・石仏遺跡^{いしほとけ い せき} ほか

県指定の有形文化財、信州の特色ある縄文土器が出土した遺跡です。縄文時代中期中葉から後葉の、最も縄文文化が栄えた頃の遺跡で、華やかな唐草模様が付けられた土器が数多く出土しています。

• 百駄刈遺跡^{ひゃくだかり い せき}

縄文時代後期、寒冷化が進み、厳しい生活を送っていた人々が、祈りの場として、石を敷き、その中に 6 本の石棒を立てた遺跡です。祈りの場を取り囲むように 5 軒の竪穴建物がみつかり、この時期の伊那谷を代表する遺跡となっています。

• 野口遺跡

縄文時代晩期の再葬墓^{さいそうぼ}で、長方形の石室の中に、31 人分の人骨が、7 か所にまとめられた状態で見つかりました。また、それらの人骨の多くに犬歯^{けんし}を抜く抜歯^{ぼっし}が見られました。当時の習俗^{しゅうぞく}や葬送儀礼が分かる、貴重な遺跡です。

中テーマ 3 稲作文化の伝播^{でんぱ}とその後の発展

中国大陸から伝わった稲作の文化は、天竜川沿いに北上し、この伊那市にも弥生時代前期の終わり頃に入って来たことが発掘調査によってわかりました。その後、弥生時代後期には市内各地に集落が営まれるようになりました。

〈小テーマ〉

• 荒神遺跡^{あらがみ い せき}

道路建設工事に先立つ発掘調査で、新たに発見された弥生時代の遺跡です。これまで市内では見つかっていなかった、弥生時代前期末から中期初頭の遺構が検出され、土坑の中からは、この地に稲作を伝えた人々の持ち物だったと考えられる、遠賀川系の壺^{おん がわけい つぼ}が出土しました。

• 西春近の弥生時代遺跡

西春近地域では、弥生時代後期から集落遺跡が数多く見られます。弥生文化が定着したこの頃になると、集落や財産を守るための堀を巡らせた、環濠集落^{かんごうしゅうらく}が作られるようになりました。

中テーマ 4 上伊那で最も古墳が多い伊那市

伊那市は、上伊那で最も古墳が多く、古墳時代の中心的な場所であった事がわかります。近年、老松場古墳群で新たに発見された前方後円墳の発掘調査が行われ、市域の古墳分布の再調査も行われたことから、伊那市の古墳時代の様相が新たに见えてきました。

〈小テーマ〉

・老松場古墳群

8基の古墳からなる古墳群。地域の人々と地元の小学生と一緒に公園整備を進める中で、古墳群の中に前方後円墳が含まれることを新たに発見しました。その後、発掘調査も行われ、長野県の古墳時代研究を前進させる大きな成果を残しました。

・天竜川左岸段丘上の古墳群

伊那(竜東)地域、東春近地域の段丘上には、南北に80基以上の古墳があります。伊那の地に特徴的な低い墳丘(低墳丘)が多く、これらの古墳群がいつどのように成立し、どのような物が副葬されているのか、まだほとんど分かっていません。

・伊勢並古墳群

3基の古墳からなる古墳群で、その中の一つ、狐塚南古墳から市の指定文化財となっている金メッキが施された馬の飾り(杏葉)が出土しています。この古墳群に葬られた人物の権威を象徴する副葬品です。

・福地古墳群

富県地域の北福地には、上伊那地域唯一の方墳2基が遺されています。また、南福地の古墳群は、1基を残して壊されてしまいましたが、南信地方でも最古級の馬具(轡)が出土するなど、馬の生産に関わったとみられる人々の古墳がありました。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 (歴史文化資源の類型)	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
旧石器時代 から見られる 人々の暮らし	戸台秋葉洞窟	旧石器時代の生活痕 (記念物・遺跡)	長谷黒河内	旧石器人が食べた大型哺乳類の骨が70点以上も出土した洞窟。
	神子柴遺跡	【国】神子柴遺跡出土品 (有形・考古資料)	(南箕輪村)	神子柴型石器と遺跡の名前が付けられた、日本で最も美しいと称される66点の石器。伊那市創造館で見学することができる。
縄文文化が 花開いた 集落の繁栄と 衰退	三ツ木遺跡	縄文時代早期の集落遺跡 (記念物・遺跡)	富県南福地	全国でもほとんど出土例がない、完形の押型文土器が出土。
	御殿場遺跡	【国】顔面付釣手形土器 (有形・考古資料)	富県北福地	県指定の史跡で縄文時代中期を代表する集落遺跡、御殿場遺跡から出土した。
	月見松遺跡	【県】顔面把手付深鉢形土器 (有形・考古資料)	伊那(竜西)小沢	縄文時代の大集落遺跡から出土した、日本を代表する産土器。
	島崎遺跡 原遺跡 ほか 石仏遺跡	【県】信州の特色ある縄文土器 10点 (有形・考古資料)	伊那・高遠町・長谷	縄文時代中期後葉に作られた、ダイナミックな唐草模様を装飾する地元ならではの素晴らしい縄文土器。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
縄文文化が 花開いた 集落の繁栄と 衰退	百駄刈遺跡	縄文時代後期の配石祭祀遺跡 〈記念物・遺跡〉	西春近小出三区	寒冷化が進み、厳しい生活を送っていた、縄文時代後期の人々の祈りの場。
	野口遺跡	縄文時代晩期の再葬墓 〈記念物・遺跡〉	手良野口	習俗や葬送儀礼がよく分かる人類学的にも貴重な大量の人骨が出土。
稲作文化の 伝播とその後 の発展	荒神遺跡	弥生時代前期末の土坑群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)野底	稲作文化を伝えた壺、遠賀川系土器を発見。市唯一の弥生時代前期の遺構。
	西春近の 弥生時代遺跡	弥生文化後期の環濠集落 〈記念物・遺跡〉	西春近	弥生前期から中期の土器片と、伊那の地に弥生文化が定着した後期の環濠集落。
上伊那で 最も古墳が 多い伊那市	老松場古墳群	前方後円墳を含む8基の古墳 〈記念物・遺跡〉	東春近中組	長野県の古墳時代に新たな1ページを加えた、新発見の前方後円墳を含む古墳群。
	天竜川左岸 段丘上の古墳群	低墳丘の円墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)・ 東春近	伊那の地に特徴的な低い墳丘を持つ、80基以上の円墳群。
	伊勢並古墳群	【市】杏葉 〈有形・考古資料〉	伊那(竜西)西町	狐塚南古墳出土、金メッキされた素晴らしい馬具(馬の装飾品)。
	福地古墳群	古墳時代前期～後期までの 円墳・方墳 〈記念物・遺跡〉	富県北福地・南福地	上伊那唯一の方墳や、馬の生産に関わった人々の古墳群。

テーマを構成する歴史文化資源



あらがみ いせき おんががわいどき
荒神遺跡の遠賀川系土器



みこしばいせき
神子柴遺跡出土品
(国指定重要文化財)



信州の特色ある土器
ぼうげいと いせき こうろがたどき
「坊垣外遺跡」香炉形土器
(長野県宝)



信州の特色ある土器
はらいせき からくきもんどき
「原遺跡」唐草文土器
(長野県宝)

凡 例
指定文化財
● 有形の文化財
▲ 無形の文化財
■ 記念物
○ 主な未指定資源
— 高速道路
— 一般国道
— 主要地方道
— 鉄道



図. 構成資源の位置



信州の特色ある土器

つきみ まつ いせき
「月見松遺跡」
がんめんとつてつきふかばちがたどき
顔面把手付深鉢形土器
(長野県宝)



こてんば いせき
「御殿場遺跡」
がんめんとつてつきふかばちがたどき
顔面付釣手形土器
(国指定重要文化財)



ろうしょうば ごうふん
老松場 1号墳



上伊那で2基しかない方墳
こませ こん
駒合古墳



ひやくだんがり いせきはいせき いこう
百駄刈遺跡配石遺構



かんこうしゅうらく
弥生時代後期の環濠集落
なかむら いせき
中村遺跡



きつねづかみなみ こん
狐塚南古墳出土品
(市指定文化財)

3-2 関連文化財群2の保存・活用に関する課題

- ・伊那市内の遺跡調査は、開発工事に伴う調査が中心であるため、これまでに調査対象となった遺跡に時代的偏りがあり、伊那市の歴史を通史的に概観できるような調査研究が進んでいません。
- ・既存の埋蔵文化財包蔵地の周知が不足しているため、損壊の恐れがあります。

3-3 関連文化財群2の保存・活用に関する方針

- ・これまでの発掘調査の成果と遺跡の分布調査の成果を踏まえて、埋蔵文化財包蔵地の見直しを行い、各時代の遺跡の広がりを把握します。
- ・大学研究室などと連携し、開発工事に伴う調査以外にも必要に応じて学術調査を行っていきます。
- ・埋蔵文化財の周知を徹底し、文化財を知ってもらうための取組をします。

3-4 関連文化財群2の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7 10	中期 R11 13	後期 R14 16	市民・所有者	企業・団体	教育・研究	行政	
群2-1 (措置1再掲)	埋蔵文化財再整理事業	過去に調査が行われた遺跡(市指定史跡月見松遺跡など)の出土遺物や記録類の再整理や、未報告の遺跡の出土遺物などの再整理を行い、遺跡の再評価及び活用事業につなげる。	継続							◎教生	国費 県費 市費
群2-2	発掘調査現場公開	発掘調査現場を積極的に公開し、身近な遺跡を知り、理解を深める機会を提供する。	継続							◎教生	市費
群2-3 (措置15再掲)	史跡・遺跡などの映像記録作成と公開	主要な史跡・遺跡などの立地や景観をドローンで広範囲に撮影、記録し、データをWeb公開する現地看板などへのQRコード設置など。	新規							◎教生	市費
群2-4	発掘調査成果パネル展示の開催	伊那市創造館等において、最新の発掘調査の成果などのパネル展示を開催する。	継続						○	◎教生	市費
群2-5 (措置28再掲)	遺跡地図(埋蔵文化財包蔵地)の見直し	試掘調査などにより埋蔵文化財包蔵地の範囲確認を行い、既存地図を更新、公開することで、遺跡の保護に万全を期す。	継続						○	◎教生	国費 市費
群2-6 (措置29再掲)	埋蔵文化財の保護(開発事業との調整及び記録保存)	遺跡内における開発事業と埋蔵文化財の保護を両立するため、事業者と十分な調整を行い、適切な遺跡の保存を図る。	継続				○	○		◎教生	国費 市費

(本表は、第7章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第7章の措置番号とともに整理しています。)

4 関連文化財群3

4-1 ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群3 街道 一人・もの・文化が行き交う伊那市一

ストーリー

伊那市は本州の中央部に位置し、中央構造線をはじめとする断層や天竜川の影響を受けてできた南北に細長く伸びる谷あいの地にあります。3,000m級の山々を有する南アルプスと中央アルプスに挟まれた伊那谷は、地形・地勢上の条件により、古くから南北方向に街道が発達しました。また、周辺地域と行き来するためには、東西方向の街道も欠かせず、時代に応じて様々な街道が東西南北に走っていました。天台宗や日蓮宗布教の道である「法華道」、火伏の神を祀る秋葉神社へ通じる「秋葉街道」、仲仙寺に通じる「はびろ道」、戦場に向かう武士が駆け抜けた「杖突街道」、参勤交代のため殿様が行き来した「金沢街道」、物資輸送が盛んに行われた「伊那街道」や「権兵衛街道」。これらの街道は時代も性格もそれぞれ異なりますが、大きく分けると「信仰のみち」、「軍事・政治のみち」、「経済のみち」に分けることができ、様々な目的を持った人が盛んに往来し、街道沿いには多彩な文化が育まれました。

民間信仰と結びついて、石造物の需要が高まった江戸時代には、石材加工を専門に行う職人である高遠石工が生まれました。彼らは街道を使い、全国各地と故郷を行き来していましたが、高い技術が評判をよび、石造物だけでなく、江戸城や品川台場砲台の石垣も手掛けたと伝えられています。

街道の交差点は人や物の集まる場所です。東西南北の街道が交差する坂下周辺は、近代以降賑わいを増し、伊那町へと発展を遂げました。元々地域の産業であった養蚕製糸も、近代製糸業に発展し、地域に大きな経済効果をもたらしました。長年にわたり水害や渇水に苦しめられてきた人々の悲願であった、三峰川上流の2つのダム建設もまた、伊那町の経済を支え、現在の中心市街地の発展へとつながっていきました。



図. 伊那市周辺の街道

テーマの説明

中テーマ 1 信仰のみち

「法華道」、「秋葉街道」、「はびろ道」はその名からわかるように、信仰の道として古くから人々の往来がありました。それぞれの道沿いには、その道に関係する石造物や寺院、お堂などの歴史文化資源がたくさん遺されています。

〈小テーマ〉

・法華道

長谷^{ひし}非持から高遠^{しびら}町芝平を通して、入笠^{にゅうかさやま}山東斜面を登り、諏訪郡富士見町の若宮で甲州街道に合流する道です。天台宗や日蓮宗の高僧達が、山梨県から伊那谷への布教に使い、法華経を伝えた道であったことから法華道と呼ばれました。道沿いには、今も多くの由緒ある日蓮宗の寺院が遺されています。

・秋葉街道

高遠^{おきふじ}町長藤の場から長谷を経て、中央構造線の谷を通り、静岡県浜松市にある秋葉神社まで続く道が秋葉街道です。縄文時代から利用されていたと考えられる古い道で、江戸時代に火伏の神を祀る秋葉信仰が関東、東海、北陸一帯に広まると、秋葉神社への参詣の道として盛んに利用されました。

・はびろ道

伊那市の中心市街地に、市指定の史跡になっている「坂下^{さかしだ}の辻^{つじ}」があります。この辻から南北に伊那街道が延び、東は高遠へ向かう杖突街道(金沢街道)、西は権兵衛街道と西箕輪の仲仙寺へ向かうはびろ道が延びています。馬が農耕と交通の主役であった時代、馬の安全祈願のために、人と馬がともに仲仙寺へ参拝する信仰の道でした。

中テーマ 2 軍事・政治のみち

伊那谷と諏訪地域を結ぶ主要道が「杖突街道」、「金沢街道」です。どちらの街道も戦国時代には軍用道路として使われました。「金沢街道」は江戸時代に入ってから、高遠藩主や飯田藩主が参勤交代で江戸^{くにもと}と国許を往復するために使いました。まさに、軍事と政治に使われた街道でした。

〈小テーマ〉

・杖突街道・金沢街道

高遠城下から杖突峠を越えて諏訪へ抜ける「杖突街道」は、軍事上重要視された街道で、街道沿いの要衝^{ようしゅう}には多くの山城、城館跡が見られます。金沢峠を越えて甲州道中の金沢宿(現在の茅野市金沢)へ抜ける「金沢街道」は、江戸時代には参勤交代に使われ、杖突街道との分岐点となる御堂垣外宿^{みどがいとじゅく}には本陣が遺り、門や座敷が当時の様子を伝えています。

中テーマ 3 経済のみち

市内には複数の街道が東西南北に走っていますが、南北方向の道は谷筋を通る大きな街道として発達し、東西の道は主要道や峠を越えて谷と谷を結ぶ街道として発達しました。網の目のような街道は物資輸送の道、「経済のみち」として、各地を結びました。

〈小テーマ〉

・伊那街道(三州街道)

別名三州街道とも呼ばれる伊那街道は、中山道の塩尻宿(現在の塩尻市)から分岐して伊那谷を南下し、愛知県岡崎市で東海道に合流する街道です。江戸時代には、伊那地方の農民が農閑期の副業として物資を運んだことに始まる、「中馬」と呼ばれる民間運送業の道として、盛んに使われました。

・春日街道

江戸時代の初め、飯田城主の小笠原秀政が春日淡路守に命じ、飯田と松本を結ぶ軍用道路として整備された街道です。春日淡路守の名をとって春日街道と呼ばれました。この春日街道とはほぼ同じルートを、かつての東山道が通っていたという説もあります。

・権兵衛街道

権兵衛街道は坂下の辻を起点とし、権兵衛峠を越え、木曽で中山道と合流する街道です。江戸時代中期に新たに開通したこの道により、伊那の米が米穀の乏しい木曽に大量に運ばれ、木曽からは特産の漆器や曲げ物が運ばれました。また、この街道の開通は、伊那から木曽への助郷(中山道の宿場における労役)が始まるきっかけともなりました。

・中馬街道ならではの食文化

馬による物資輸送が盛んで、馬の飼育頭数が多かった伊那では、馬刺しやおたぐり、さくら鍋といった馬肉を食べる食文化が根付いています。馬の腸を煮込んだ「おたぐり」は、25mもある腸をたぐりながら洗うところから名づけられました。

中テーマ 4 街道が運んだ技術と文化 ー高遠石工ー

江戸時代、信州高遠を拠点に全国で活躍したのが高遠石工です。北は青森県、南は山口県の18都府県、全国各地に出向いて石仏、石鳥居、供養塔など多くの優れた石造物を造りました。高遠石工は、伊那から東西南北に延びる街道を使い、全国各地と行き来したのです。

〈小テーマ〉

・稀代の名工・守屋貞治

守屋貞治は、高遠石工の中でも特に優れた腕を持ち「稀代の名工」と称されました。貞治は数多くの彫像を手掛け、生涯で350体に及ぶ作品を遺しました。柔らかく滑らかな曲線で、豊かな表情や繊細な衣装を石に表現しており、高い技術が各作品から見てとれます。

・全国に名をとどろかせた高遠石工

江戸時代、現在判明しているだけで、1,300人もの石工が全国で活躍していました。高い技術を持つ「高遠石工」の名は一大ブランドとなり、彼らが納める営業税(運上金)は藩の財政を支えたため、藩は石工の旅稼ぎを奨励し、益々多くの石工が全国へ出向いていきました。市内には、彼らの足跡を知ることができる多くの古文書が遺されています。

・高い技術を物語る石造文化財

高遠石工の作品は、市内にも数多く遺り、守屋貞治の作品以外にも優品とされる5点の石造文化財が市の指定文化財になっています。

・村を守り、人々に寄り添う石仏

市内に9,000点余りある石造物は、^{どうそじん}道祖神、^{こうしんとう}庚申塔、^{ばとうかんのん}馬頭観音、^{こだまがみ}蚕玉神など、その種類は多岐にわたります。一点一点それぞれの思いが込められてその場に建てられ、大切にされて来ました。信仰や祈願の対象になり、毎年例祭が執り行われている石仏もあります。

中テーマ 5 街道の交差点 伊那町の発展

明治時代、新しい三州街道が開通し、伊那電気鉄道が開業すると、東西南北の街道が交わる伊那町坂下の一带は、上伊那の流通、経済、政治の中心地として発展していきました。戦前、戦中、戦後、それぞれの時代の面影を遺す建物や町並みが、現在も遺っています。

〈小テーマ〉

・流通・製糸・ダム建設が支えたまち

明治45年(1912年)の伊那電気鉄道の開通は、大量の物資輸送を可能にしました。鉄道が通ったことで伊那町駅を中心に商店、銀行、旅館、劇場などが次々と開業し、まちはさらに発展しました。戦前から戦中にかけて製糸業の機械化が進み、大きな工場がまちの中にも周辺にも建ち並びました。戦後は三峰川総合開発事業により美和ダムと高遠ダムの建設が始まると、工事関係者やその家族で伊那町は大変賑わいました。近、現代を通して伊那町は様相を変えながらも発展を続けたのです。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
信仰のみち	法華道	【国】遠照寺釈迦堂附多宝小塔 〈有形・建造物〉	高遠町山室	法華道沿いの日蓮宗寺院で、室町時代後期に建立された釈迦堂内には、大工・池上氏一族が建てた多宝小塔がある。
		【市】遠照寺七面堂 〈有形・建造物〉	高遠町山室	日蓮宗の七面信仰を物語るお堂で、江戸時代中期の建築。色彩豊かな天井絵がある。
		【市】七面堂 〈有形・建造物〉	長谷非持山	七面信仰を物語るお堂で、日蓮宗玄立寺の守護神を安置している。現在の建物は江戸時代中期に再建された建物。
		【市】弘妙寺須弥壇 〈有形・建造物〉	高遠町荊口	法華道沿いの日蓮宗弘妙寺本堂内にある朱塗の須弥壇。文政5年(1822)白鳥四郎の作で龍の彫刻が刻まれている。
	秋葉街道	道標・常夜灯・秋葉山大神碑 〈有形・石造物〉	高遠町長藤・長谷溝口ほか	秋葉神社へ向かう道を示す道しるべや街道を照らす常夜灯、秋葉様を祀る碑などの石造物。
		秋葉講・御札入 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町・長谷ほか	集落ごとに講があり、12月の秋葉神社の本祭に当番が交代で参詣した。秋葉山のお札を入れる「御札入」も集落内に見られる。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
信仰のみち	はびろ道	仲仙寺 〈有形・建造物〉	西箕輪羽広	天台宗の古刹。信濃三十三観音霊場の札所であり、多くの参詣者を集めた。仲仙寺へ通じる道がはびろ道。
		【市】羽広の絵馬 〈民俗・有形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	馬の観音様、仲仙寺に奉納された絵馬。江戸時代から明治時代に奉納されたものが数多くあり、多数の馬を描いた千匹絵馬がある。
		【市】木造持国天 多聞天立像 〈有形・彫刻〉	西箕輪羽広	仲仙寺本堂に安置されている鎌倉時代の作とみられる仏像。
		【市】鰐口 〈有形・工芸品〉	西箕輪羽広	仲仙寺に伝わり、大永4年(1524年)の銘を持つ鰐口。
		【県】木造金剛力士立像 (阿形像及び吽形像) 〈有形・彫刻〉	西箕輪羽広	文亀元年(1501年)、七条大蔵康忠の作で、仲仙寺の仁王門内に立つ。寄木造の朱彩色で、室町時代の作品として貴重な彫刻。
		【市】羽広の獅子舞 〈民俗・無形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	江戸時代初期、仲仙寺観音堂の再興を祝い始められた獅子舞で、観世音の狛犬とされる。
		丁石 〈有形・石造物〉	伊那(竜西)・西箕輪	はびろ道に1丁(約109m)ごとに置かれた石造物で、地域の人々が願主となり奉納された。
		【市】坂下の辻 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)山寺	はびろ道の起点である辻で、「右ぜんかうじ 左はびろ 道」と書かれた道標がある。
軍事・政治のみち	杖突街道・金沢街道	【市】藤沢城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町藤澤	杖突街道を押さえる地にある山城で、藤澤の領主が築いたとされる。主郭、二の郭、三の郭、堀、土塁などが遺っている。
		御堂垣外宿本陣 〈有形・建造物〉	高遠町藤澤	金沢街道は参勤交代の道として使われた。高遠藩主や飯田藩主らが休憩、宿泊した御堂垣外宿本陣には門や当時の座敷が遺る。
		【市】貴船社子供騎馬行列 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町藤澤	江戸時代初期の高遠藩主、保科正之が高遠から山形領へ移封する際、貴船社に奉納したとされる騎馬行列。
経済のみち	伊那街道 (三州街道)	【市】伊那部宿酒屋旧井澤家住宅 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)西町	伊那部宿で代々造り酒屋を営んでいた豪農の井澤家の住宅で、宿場内で唯一の破風屋であり、建坪も最大だった。
		常円寺 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)山寺	伊那街道沿いの古刹で、多くの参拝者が訪れた。寺の前には旧道の面影を残す。
経済のみち	春日街道	春日街道跡碑 〈有形・石造物〉	伊那(竜西)荒井	飯田を起点に松本まで結ぶ街道として計画され、江戸時代初期に整備された。伊那街道と並行している。
	権兵衛街道	【市】坂下の辻 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)山寺	権兵衛街道の起点でもある辻で、木曾宮ノ越まで通じていた。
		【市】羽広の絵馬 〈民俗・有形の民俗文化財〉	西箕輪羽広	仲仙寺の絵馬の中には、木曾の馬持ちが繁栄を願って奉納した千匹絵馬があり、木曾との交流を知ることができる。
		伊那節 〈無形文化財〉	西箕輪	権兵衛街道は伊那から木曾へ助郷人足や米を運んだ道で、「木曾へ木曾へとつけ出すコメは伊那や高遠のお蔵米」と唄われた。
	中馬街道 ならではの食文化	馬刺し、おたぐり 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	馬が身近だった伊那では、馬刺しや馬のもつ(腸)を煮込んだおたぐりが食べられており、馬刺しは赤身が好まれる。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の種類〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
街道が運んだ 技術と文化 ー高遠石工ー	稀代の名工・ 守屋貞治	【市】建福寺石仏群 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	江戸時代中期に活躍した石工、守屋貞治が刻んだ石仏で、建福寺には最高傑作の願王地蔵や西国三十三所観音などがある。
		【市】大聖不動明王 〈有形・彫刻〉	高遠町勝間	守屋貞治作。勝間の集落境にあり、三峰川の水を鎮め、災厄が村へ入って来ないよう祈ったもの。
		【市】准胎観世音 延命地蔵尊 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	桂泉院の参道両脇にある守屋貞治作の石仏。
		【市】円通寺の石仏二体 〈有形・石造文化財〉	長谷市野瀬	円通寺の参道石段の上にある守屋貞治作の石仏。
	全国に名をとどろかせた 高遠石工	石破元祖之巻 〈有形・古文書〉	高遠町東高遠	高遠石工の職業由来を記した免許状で、源頼朝に認められたと語られている。高遠石工はこの由来書を示しながら活動していた。
		石工関係文書 〈有形・古文書〉	全域	高遠藩では石切目付という役職を置き、領内の石工たちを統率していた。石工たちが藩へ提出した文書が多く遺されている。
	高い技術を 物語る 石造文化財	【市】石造双体道祖神 〈有形・石造文化財〉	東春近下殿島	江戸時代後期に活躍した小笠原政平作の道祖神。男女2人を彫った祝言像で、夫婦円満、子孫繁栄を祈ったもの。
		【市】宝篋印塔(洞泉寺) 〈有形・石造文化財〉	美簗下川手	守屋貞治の弟子で名工、渋谷藤兵衛作の宝篋印塔で、天保9年(1838年)に造られた。
		【市】石造准胝観音菩薩 〈有形・石造文化財〉	東春近田原	江戸時代後期に活躍した小笠原政平作の観音菩薩像で万延元年(1860年)に造られた。
		【市】六角観音供養塔 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	旧相頓寺の境内にある六観音の名号塔。延享4年(1747年)に水上村久左衛門の作。
		【市】建福寺仏足跡 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	お釈迦様の足裏の形を刻んだもので、天保6年(1835年)に伊勢国金剛證寺のものを写し建てられた。
	村を守り、 人々に寄り添う 石仏	【市】中尾辻の石仏群 〈有形・石造文化財〉	長谷中尾	道祖神や庚申塔など約30基の石造物が集中している。馬頭観音や丸石道祖神、垂玉神、佐倉宗五郎霊神などもある信仰の場。
		【市】非持山馬頭観音 〈有形・石造文化財〉	長谷非持山	元禄2年(1689年)のものをはじめ、約50体の馬頭観音が集められている。馬頭観音は馬の安全息災や供養のために建てられた。
		四国八十八か所霊場巡拝塔 〈有形・石造物〉	手良野口	江戸時代末期に造られたが、作者は不明。野口区の寄進者が最も多く、「お四国様」と呼ばれ地域に親しまれている。
		南原の地蔵と枝垂れ桜 〈有形・石造物／記念物・植物〉	高遠町藤澤	枝垂れ桜の下に、地蔵尊に見立てられた大きな自然石が祀られている。
		二十二夜様のまつり 〈民俗・無形の民俗文化財〉	高遠町西高遠	西高遠島畑にある二十二夜様と呼ばれる石仏群は、江戸時代から月待信仰の対象となっており、今でも旧暦7月22日の夜にお祭りが行われている。
		でえもんじ 〈民俗・無形の民俗文化財〉	西箕輪上戸	道祖神の祭りとして一体となった小正月の祭りで、厄払いの色紙袋などを大きな柱に飾り、1月14～20日まで集落入口の辻の道祖神の隣に建てられる。
		庚申塔 〈有形・石造物〉	全域	民間信仰の1つ、庚申信仰に関わるもので、庚申の年に石塔を建て、村の安全を祈った。各集落の村境や辻に建てられている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の種類〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
街道の交差点 伊那まちの 発展	流通・製糸・ダム 建設が支えたまち	伊那電気鉄道(飯田線) 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)・ 西春近	明治時代以降の伊那町の発展を支えた鉄道 で、昭和 18 年(1943 年)に飯田線となり、 現在は JR 飯田線になっている。
		【市】旧上伊那図書館 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井	製糸業で富を築いた武井寛太郎の寄付で、 昭和 5 年(1930 年)に建てられた建物。鉄筋 コンクリートを用いた近代建築。
		レトロな町並みを構成する建物 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)荒井ほか	通り町などには、洋風の外観を持ち、近代に流 行した看板建築の名残を感じられる建物が遺 っている。
		ローメン 〈民俗・食文化〉	全域	昭和 30 年(1955 年)頃に生まれた蒸し麺と 羊肉、野菜を炒めた食べ物で、市民に愛され るご当地グルメ。
		ソースかつ丼 〈民俗・食文化〉	全域	ご飯の上にソースがしみこんだ豚カツとキャベツ がのったかつ丼は、戦後、伊那町の飲食店で 親しまれ、地域の名物になっている。

テーマを構成する歴史文化資源



はひろ えま せんびき えま
羽広の絵馬・千匹絵馬
(市指定文化財)



きぶねじんじゃこども きばぎょうれつ
貴船神社子供騎馬行列
(市指定文化財)



馬刺し



つえつきかいどう
杖突街道(金沢街道)

凡 例
指定文化財
● 有形の文化財
▲ 無形の文化財
■ 記念物
● 主な未指定資源
— 高速道路
— 一般国道
— 主要地方道
— 鉄道



ちょうせき
丁石(4丁目)



あきは かいどう
秋葉街道

図. 構成資源の位置



さかし たつじ
坂下の辻(市指定文化財)



春日街道碑



とお ちょう かんばんけんちく
通り町の看板建築



にじゅうに やさま
二十夜様



えんつう じえんめい じぞう ぼさつ
円通寺延命地藏菩薩
(市指定文化財)



あきは さん おふだいれ
秋葉山の御札入
(溝口郵便局前)



ぐみょう じしゅ みだん
弘妙寺須弥壇
(市指定文化財)



ほっけ みち
法華道



ふじさわじょうせき じゃやま
藤沢城跡(蛇山)
(市指定文化財)

4-2 関連文化財群3の保存・活用に関する課題

- ・街道沿いには多くの石造文化財がありますが、あまり認知されておらず、活用が十分ではありません。多くの市民の興味関心が高まるような取組が必要です。
- ・街道沿いの旧家や蔵など、歴史的建造物の取り壊しが増えており、それぞれの資源やストーリーに関わる古文書などの資料が散逸の危機に瀕しています。

4-3 関連文化財群3の保存・活用に関する方針

- ・街道に関わる歴史的建造物や石造物、古文書といった歴史文化資源を把握し、楽しみながら歴史文化資源に触れる取組を行います。
- ・個人や愛好者などが街道歩きや石造物巡りを楽しめるよう、資源の位置を明確にしたマップやパンフレットなどを作成、公開します。
- ・歴史資料の散逸を防ぐため、積極的な啓発活動などを行います。

4-4 関連文化財群3の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規継続の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R7 ～ 10	中期 R11 ～ 13	後期 R14 ～ 16	市民・所有者	企業・団体	教育研究	行政	
群3-1 (措置9 再掲)	高遠石工調査	市内外を問わず、高遠石工に関わる資料や石造物の把握を進める。	継続				○	○		◎ 教生	市費 団体費
群3-2 (措置40 再掲)	文化財相談窓口	歴史資料の散逸を防ぐため、市報や市ホームページなどで呼びかけを行うとともに、市教委、各博物館などに歴史文化資源に関わる問い合わせ窓口を置く。	新規				○			◎ 教生	市費
群3-3	石仏探訪マップの作成	石造文化財巡りを楽しめるように、見どころや周遊ルートを紹介したマップを作成し、Web公開や市内施設で配布する。	継続					○		◎ 商観	市費
群3-4	石工、石仏関連イベントの実施	高遠石工のふるさとを体感してもらうため、地域の石造文化財を対象としたイベントを実施する。	継続					◎	○	○ 商観	企業 団体等
群3-5	石仏フィギュアの製作と石仏ガチャの設置	3Dスキャン技術を活かして小型カプセルトイ(石仏フィギュア)を製作し販売する。	継続					◎		○ 商観	企業 団体等
群3-6	石仏案内ガイドの育成支援	市内各地の石造物を対象とした案内ガイドの育成や、育成支援を行う。	継続					◎		○ 商観	団体等

(本表は、第7章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第7章の措置番号とともに整理しています。)

5 関連文化財群4

5-1 ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群4 高遠城 ―700年の歴史が作り上げた町並みと文化―

ストーリー

700年といわれる高遠城の歴史は、時代ごとに様々な影響を地域に与えてきました。

高遠城が築かれた室町時代は、多くの小領主が台頭した時代で、その頃の城館跡が今でも市内に多数遺されています。

戦国時代の伊那を語る上で欠かせないのが、隣国の甲斐かい（現在の山梨県）から侵攻し、この地域を押さえた武田氏です。高遠城主から武田家当主となった武田勝頼かつより、織田軍との壮絶な戦いが今でも語り継がれる仁科五郎盛信にしなごろうもりのぶ（信盛）など、武田家ゆかりの人々がこの地を治め、伊那周辺の多くの商人、職人が武田家を支えていました。

江戸時代には高遠城を中心に城下町が形成され、高遠は政治、経済、文化の中心地として栄えました。市域には高遠藩のほか、幕府領もあり、人々はそれぞれの帰属意識を持ちながら暮らしていました。伊那谷の学問の中心地もまた高遠で、江戸や大坂で最新の学問を学んだ人々が、藩校進徳館しんとくかんや私塾で教壇に立ち、地域に学問を広めていきました。

明治時代になると、廃城となった高遠城の跡地にタカトオコヒガンザクラが植えられ、多くの人が憩う公園となりました。城跡の桜は「天下第一の桜」となり、現在は全国に知られる一大観光地となりました。長い間地域の中心として存在した高遠城と、城が育んだ歴史文化は、今でも私たちの誇りとなっています。

テーマの説明

中テーマ 1 地域領主の群雄割拠ぐんゆうかつきょ

室町時代、伊那市周辺には地域を束ねる幾人もの小領主が存在しました。市内には彼らが築いた城館跡が多く遺ります。甲斐の戦国大名、武田氏が伊那に侵攻してきた際、彼らは手を組み大きな抵抗勢力となりましたが、最終的には武田氏配下に取り込まれていきました。

〈小テーマ〉

・城館跡や山城

小領主たちが暮らす館は、戦いに備え、堀や土塁どるいなどで囲まれていました。山中には防衛力の高い山城を築き、戦が起こるとそこを拠点に戦いました。数多く遺る城館跡や山城は、緊張感と隣り合わせの時代を物語ります。

・伝承と地名

市内には、戦国時代に由来する地名や伝承がいくつか伝わっています。これらは群雄割拠の時代を考える手がかりとなります。

中テーマ 2 戦国大名武田氏を支えた地、伊那

戦国大名武田信玄は、信濃支配の一拠点として、伊那を重要視しました。勝頼や盛信といった信玄の息子が高遠城主になり、地域を治めました。長谷非持には武田氏に仕えた腕の良い番匠ばんしょう（大工）や勝頼の祖母がおり、武田家との関係の深さを物語る資源が伝えられています。

〈小テーマ〉

・信玄三河出兵の道

上洛じょうらくを目指す信玄が、徳川家康と対峙するために三河（現在の愛知県東部）へ出兵した際に開通したという伝承を持つ道が遺ります。

・諏訪勝頼から武田勝頼へ

諏訪氏の跡目を継ぐ形で高遠城主に就いた信玄四男の勝頼は、やがて武田家を継ぐことになりました。地域に遺る資源からは、勝頼のルーツにあたる諏訪氏との関わりや、武田氏を継いだ後の勝頼と伊那との関わりが見えてきます。

中テーマ 3 高遠城の戦い

織田信長の勢力拡大に伴い、高遠城は武田軍と織田軍の壮絶な戦いの場になりました。地域に遺る資源からは、武田氏一族として負けることができない仁科盛信と、各地で勝利を収め、勢いづく織田軍の様子、戦いから逃れようとする人々、三者三様の姿が浮かび上がります。

〈小テーマ〉

・武田軍と織田軍の激戦を物語る品や遺跡

織田軍が進軍時に打ち鳴らし、戦後、地域の寺社に奉納された鳴り物のほか、高遠城攻めを控えた織田軍が築いた陣城じんじょうと伝わる遺跡、戦から逃れようとする人々に関わる地名が伝えられています。

中テーマ 4 近世じょうかく城郭高遠城と城下町の繁栄

高遠城は、明治5年(1872年)に城内の建物が取り壊されるまで、高遠藩主の居城であり、政庁であり、地域の中心でした。城の東には武家屋敷、西には宿場機能を併せ持つ城下町が整備され、多くの人と物で賑わいました。

〈小テーマ〉

・高遠城跡だかとおじょうせき

現在の高遠城跡で見ることができるのは、江戸時代の遺構です。本丸を中心に曲輪くるわが配置され、曲輪を隔てる大きく深い堀など、戦国時代とは異なる江戸時代の大名の権力の大きさを感ずることができます。

・広い藩領

高遠領は石高が3万3千石で、領内には86の村がありました。領域の境に遺る大きな石製の分杭ぶんぐいや領域内各地の風景を描いた絵巻、地名などから、領内の風景やそこに暮らす人々の様子をうかがい知ることができます。

- 武士の暮らしを伝える

高遠城周辺には、現在も何軒かの武士住宅が遺ります。上級、中級、下級それぞれの格式に応じた家の姿を見ることができ、武士の暮らしの一端を知ることができます。

- 城下町と町家

高遠城下には十町の町があり、間口が狭く奥行が長い町家が建ち並んでいました。現在もいくつかの町家建築が残り、商家に伝えられた古文書と合わせて、かつての町の様子を知ることができます。

- 神仏に守られた城下町

高遠城下町の外郭には、町を取り囲むように8軒の寺院と2軒の神社があり、歴代藩主らの信仰を集めました。藩主縁の品々が現在も伝えられ、神仏の霊力で町を守ろうとするばかりでなく、防衛のための戦略的な意図をもって町が造られたことが分かります。

- 絵島^{えしまおん}遠流^るの地、高遠

江戸時代中期、江戸城大奥老中の絵島が罪人として高遠へお預けになりました。絵島に関わる遺跡や資料、絵島を^{しの}偲んで訪れた明治時代以降の文人たちが遺した資料が、市内には多く遺されています。

- 城下に花開いた文化

城下町の繁栄に伴い、高遠には全国各地から多くの人が訪れ、多種多様な文化がもたらされました。城下町ならではの芸能文化や食文化が多く遺されています。

中テーマ 5 進徳館の学び、信州教育源流の地

高遠は信州教育源流の地です。高遠藩校進徳館で学んだ藩士の中には、明治時代以降、新たな教育の仕組みを整えた者や、教壇に立った者も多く、長野県内各地で教育現場を支えました。進徳館の学びが、新たな時代の人づくりにつながっていきました。

〈小テーマ〉

- 高遠の学

藩校進徳館の創設に関わった人々の様子や、進徳館で使われた教科書、村の教育者を讃える碑などを通して、学問に励んだ江戸時代の人々の様子や、次世代を創った教育の中身を知ることができます。

中テーマ 6 城跡とさくらの物語

高遠公園(現在の高遠城址公園)は、長野県下でいち早く造られた公園で、草創期には、人々が集い楽しむことができるように、桜を中心とした花樹が植えられました。春、桜一色に染まる城跡の景色は、やがて地域のシンボルになっていきました。

〈小テーマ〉

- 公園化した城跡

公園開設当時から植えられ続けたタカトオコヒガンザクラの樹林や、公園の桜のルーツを示す場所、園内に遺る公園施設など、近代公園の成り立ちを知ることができる資源が、遺されています。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
地域領主の 群雄割拠	城館跡や山城	【国】高遠城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	戦国時代の平山城で、高遠氏の城を武田信玄が改修した。江戸時代以降は高遠藩主の居城となった。
		富県の城館跡群 〈記念物・遺跡〉	富県	山城、のろし台、館跡など17の城館跡がある。館跡の多くは戦国時代の地域の有力百姓の居館と考えられている。
		【市】蟻塚城跡 〈記念物・遺跡〉	美篁笠原	中世の山城で、斜面に空堀を掘り、7段の平坦地に郭が造成されている。城主は笠原氏とも伝えられる。
		【市】小出城跡 〈記念物・遺跡〉	西春近小出一区	天竜川右岸の第一河岸段丘上に築かれた城で小井弓氏惣領家の居館跡とも伝えられる。
		【市】藤沢城跡 〈記念物・遺跡〉	高遠町藤澤	杖突街道を押さえる地にある山城で、藤澤の領主が築いたとされる。主郭、二の郭、三の郭、堀、土塁などが遺っている。
		【市】市野瀬古城址・城山の松 〈記念物・遺跡/植物〉	長谷市野瀬	天文年間(1532年～1555年)に築かれた城で、武田氏が高遠へ侵攻してきた際に抵抗した市野瀬氏の城といわれる。
		殿島城跡 〈記念物・遺跡〉	東春近中殿島・暁野	武田氏の侵攻に抵抗した殿島大和守重国の城と伝えられ土塁や空堀の跡が遺されている。
		春日城跡 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)西町	武田氏の侵攻に抵抗した春日氏(伊那部氏)の城と伝えられる。段丘地形を巧みに利用した城で、土塁や大規模な空堀が遺されている。
	伝承と地名	【市】八人塚と蓮台場 〈記念物・遺跡〉〈記念物・遺跡〉	長谷黒河内 伊那(竜東)狐島	武田晴信(信玄)の侵攻に抵抗した8人の地侍が処刑された場所が蓮台場で、8人の遺骸を長谷黒河内へ移し祀った場所が八人塚。
		「火打平(ひょうじだいら)」 〈地名〉	長谷非持	近くにある非持の城に係るのろし台と伝えられる地名。情報伝達を考える上で重要な地名。
戦国大名 武田氏を支えた地、 伊那	信玄三河出兵の道	「市坂」 〈地名〉	東春近車屋	元龜3年(1572年)に武田信玄が三方ヶ原へ出兵した際に開通したと伝えられる道に遺る地名。
		「中輪亭の坂」 〈地名〉	東春近車屋	
		「六軒屋坂」 〈地名〉	東春近車屋	
	諏訪勝頼から 武田勝頼へ	諏訪御料人の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町西高遠	武田晴信(信玄)の側室となって勝頼を産んだ諏訪氏の姫の墓。高遠城主時代の勝頼が法要を行ったと伝えられる。
		武田勝頼判物 〈有形・古文書〉	富県貝沼 (伊那市立高遠町 歴史博物館で保管)	高遠城主の武田勝頼が在地領主の埋橋氏に対して出した文書で、井筋の管理について言及している。
		【市】建福寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	武田勝頼が発給した複数の文書が伝えられており、寺に関わる課役や周辺に住む人々の課役などについて記されている。
		非持山池上家文書 〈有形・古文書〉	長谷非持山	非持山の池上家では、武田勝頼の母方の祖母の面倒をみていた。勝頼が発給した文書や勝頼祖母の書状などが伝わっている。
		円福寺文書 〈有形・古文書〉	伊那(竜西)荒井	武田家を継いだ勝頼が発給した文書で、知行安堵や寺の勤めを怠ることがないように命じたもの。
		【市】龍勝寺文書 〈有形・古文書〉	高遠町勝間	武田勝頼が発給した文書で、寺領の安堵や寺に関わる権利、禁止事項などが書かれている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
高遠城の戦い	武田軍と織田軍の激戦を物語る品や遺跡	【県】梵鐘 〈有形・工芸品〉	高遠町東高遠	織田信忠の軍が高遠城を攻めるために進軍してきた際、飯田の開善寺から奪い、引きずってきた鐘。桂泉院に伝わる。
		【市】陣太鼓・鰐口 〈有形・工芸品〉	高遠町山室	織田信忠配下の森長可が高遠城を攻めた際、遠照寺に寄進したもので、美濃国土岐の神社の銘がある。
		【市】雲板 〈有形・工芸品〉	伊那(竜西)山寺	織田信忠の軍が高遠城を攻めた際、遠江国竜安禅寺から持ち運ばれ、常円寺に寄進されたと伝えられる。
		一夜の城 〈記念物・遺跡〉	富県桜井・貝沼	織田信忠の軍が高遠城攻めの際に陣を置いた場所と伝えられる。すでにあった居館跡を利用し、一夜の陣を張ったとみられる。
		物見や城 〈記念物・遺跡〉	富県貝沼	仁科盛信(信盛)が名付けたと伝わる城で、狼煙台として使われたという。
		「駒ヶ窪」 〈地名〉	高遠町東高遠	月蔵山後ろの山中にあり、高遠城の戦いの際に、地域の人々が逃げ隠れた場所と伝えられる。
		孤軍高遠城 〈無形文化財〉	高遠町	戦後、高遠城落城の思いを伝えたいという高遠町の人々の願いにより作られた曲で、舞踊として親しまれている。
近世城郭 高遠城と 城下町の 繁栄	高遠城跡	【国】高遠城跡の城郭遺構 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠藩主の居城で、江戸時代の曲輪配置がほぼそのまま遺っているほか、堀や土塁など、近世城郭の遺構も遺されている。
		高遠城絵図 〈有形・歴史資料〉	高遠町ほか	近世の高遠城や周辺の武家屋敷を描いた絵図が、写しも含めて 100 点以上伝わっている。
	広い藩領	【市】高藩探勝 〈有形・歴史資料〉	高遠町東高遠	高遠藩主に献上するため、寛保 3 年(1743 年)に作られた絵巻で、領内 52 か所の名所やそこに暮らす人々の生活風景が描かれている。
		【市】高遠領分杭 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西) 小沢・山寺 長谷市野瀬	高遠領と他領との境界に建てられた石碑で、「是より(方角)高遠領」と刻まれている。市内には復元も合わせて、複数の分杭がある。
		「高遠道」 〈地名〉	東春近渡場・車屋・中組 西春近識訪形・表木ほか	各地から高遠へ向かう道で、領内の村々から年貢を納めに行く際に使った道とも伝えられる。
		「籠立場」 〈地名〉	西春近沢渡 高遠町上山田	殿様や武士が駕籠を置いて休憩した場所と伝えられる地名。
	武士の暮らしを伝える	【県】旧馬島家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	藩に仕えた眼科医の馬島氏の住宅で江戸時代後期の建築とされる。高遠藩の上位 30 人に入るクラスの武士住宅。
		読書楼 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	天保期(1830 年～1843 年)以前の江戸後期に建てられた中級武士住宅で、明治時代には私塾としても使われた。
	城下町と町家	相生町枅形 〈有形・遺跡〉	高遠町西高遠	城下町の南の出入口。三峰川左岸に多町、相生町の 2 町が建設された幕末に設けられた。
		【市】商家池上家 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下で醤油や酢の醸造販売、小間物販売などを行い、町役人も務めた池上家の住宅。2 階建、切妻造りの町家建築。
		池上家文書 〈有形・古文書〉	高遠町西高遠	商家池上家に伝わった江戸時代の文書群で、高遠藩の城下町政策や町方の状況が分かる好資料。高遠町図書館に収蔵されている。
		旧中村家住宅 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下町の西の入口付近にある町家で、江戸時代中期頃に建てられたものとみられる。建物内に沢水が引き込まれている。
		町方十町の地名 〈地名〉	高遠町西高遠	城下には町方十町と呼ばれる 10 の町があり、幕末に 2 つの町が増えてからは 12 町となった。各町名は現在もそのまま使われている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
近世城郭 高遠城と 城下町の 繁栄	神仏に守られた 城下町	【市】東高遠諏訪社 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	高遠藩家中と板町村の氏神。元は城の鎮守として高遠城内にあり、17世紀前半の保科氏の頃に現在地へ移された。
		【市】樹林寺千手十一面夕顔 観世音菩薩立像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	江戸時代初期に保科氏が下総国から移した樹林寺は、城の鬼門に置かれ保科家の祈願所となった。本尊は夕顔観音と呼ばれている。
		峰山寺烏居氏の墓 〈有形・遺跡〉	高遠町東高遠	高遠藩主烏居氏の時代に再興された峰山寺は、高遠城を見下ろす位置にあり、境内墓地には藩主烏居居春と、忠春の母の墓がある。
		【市】満光寺鐘楼門 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠藩主内藤家の菩提寺・満光寺には江戸時代中期に建てられた鐘楼門があり、本尊の阿弥陀如来は鎌倉時代の作と伝えられる。
		【市】満光寺阿弥陀如来立像 〈有形・彫刻〉	高遠町西高遠	
		【市】鉾持神社本殿・赤門・透かし堀 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	城下の入口付近にあり、高遠城の守護神として代々領主の篤い信仰を受けた。本殿は江戸時代中期に建てられたもの。
	絵島遠流の地、 高遠	【市】絵島囲み屋敷跡 〈記念物・遺跡〉	長谷非持	正徳4年(1714年)、江戸城大奥の老中であった絵島は、風紀を乱したとして罪に問われ、高遠藩内藤家の預かりとなった。当初は城から離れた非持に囲われていたが、後年城の近くへ移された。非持には当初の屋敷跡があり、東高遠には図面を元に復元した建物がある。
		絵島囲み屋敷 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	
		【市】絵島の墓 〈記念物・遺跡〉	高遠町長藤	
		【市】田山花袋筆屏風 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	
	城下に花開いた 文化	【市】高遠ばやし 〈無形文化財〉	高遠町西高遠	鉾持神社の祭礼の際、町内を巡行するお囃子で、江戸時代から受け継がれている。
		【市】仲町屋台 〈民俗・有形の民俗文化財〉	高遠町西高遠 (伊那市立高遠町歴史博物館で保管)	鉾持神社の祭礼の際、町を練り歩く山車で、文政5年(1822年)に造られた。立川流の彫刻が施されている。
		高遠そば 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	高遠町	江戸時代、毎年将軍に献上された高遠そばは、辛味大根のおろし汁と焼味噌で食べるのが高遠流。保科正之が会津にも伝えた。
進徳館の学び、 信州教育 源流の地	高遠の学	【国】進徳館 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	城内三ノ丸に設けられた高遠藩校の建物遺構で、江戸時代の建物のうち、半分の規模が遺されている。
		進徳図書 〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	藩校進徳館で利用していた書籍、約6,300冊が高遠町図書館に収蔵されている。
		【市】文献通考 〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	古代から宋代までの中国の法律や官制、経済、学校制度などを解説した書で、明から清時代に中国から輸入された漢籍。
		【市】五聖像 〈有形・彫刻〉	高遠町東高遠	進徳館には、儒学の祖である孔子と4名の弟子を祀る聖廟があり、領内の村人が献上した五聖像が祀られていた。
		【市】阪本天山の筆跡 〈有形・書跡〉	高遠町東高遠	儒学者であり砲術家で、高遠藩学を興した阪本天山が、高遠を離れる際に書いた詩。
		【市】藤原拾葉 【市】希月舎文庫 〈有形・典籍〉	高遠町東高遠	高遠藩の儒学者を務めた中村元恒、中村元起父子が所蔵していた郷土資料や中村父子が編纂した地誌。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
進徳館の学び、 信州教育 源流の地	高遠の学	【市】伊澤修二生家 〈記念物・遺跡〉	高遠町東高遠	進徳館で学んだ後、東京やアメリカで学び、音楽教育をはじめとする近代教育の基礎を作った伊澤修二の生家。
		進徳の森 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	進徳館で学び、ドイツへ留学して林学を極めた中村弥六が、外国産の樹を峰山寺墓地の裏山に植え、森を造った。林業遺産に認定されている。
		筆塚や寺子屋師匠らの頌徳碑 〈有形・石造物〉	全域	手習いの師匠の徳を称え、弟子が建立した筆塚や学問の師を称える頌徳碑が市内各地に存在する。
城跡とさくらの 物語	公園化した城跡	【県】高遠のコヒガンザクラ樹林 〈記念物・植物〉	高遠町東高遠	タカトオコヒガンザクラという同一種が高遠城の跡地に約 1,500 本の樹林を形成している。
		桜の馬場 〈記念物・遺跡〉	高遠町小原	江戸時代の高遠十景にも選ばれた桜の名所で、この地の桜が明治 9 年(1876 年)頃に高遠城跡へ植えられ、現在の樹林の元になった。
		【国登録】高遠閣 〈有形・建造物〉	高遠町東高遠	昭和 11 年(1936 年)、集会や休憩、宴会のための施設として、高遠城跡内に建てられた和風建築。

テーマを構成する歴史文化資源



たかとおりようぶんくい
高遠 領分杭 (市指定文化財)



ほこじ じんじやあかもん す べい
鉾持神社赤門・透かし堀
(市指定文化財)



高遠ばやし (市指定文化財)



けいせんいん ほんしやう
桂泉院の梵鐘 (県宝)

凡 例
指定文化財
● 有形の文化財
▲ 無形の文化財
■ 記念物
● 主な未指定資源
— 高速道路
— 一般国道
— 主要地方道
— 鉄道



図. 構成資源の位置



たけだ かつよりしゆいんじやう けんぶくじ
武田勝頼朱印状／建福寺文書
(市指定文化財)



しょう か きゆういけがみ け
商家旧池上家 (市指定文化財)



高遠のコヒザンザクラ樹林
(県指定天然記念物)



しんとく もり
進徳の森



高遠そば



しんとくかん しんとく としよ
進徳館より受け継いだ進徳図書



まんこう し しょうろうもん
満光寺 鐘 楼門
(市指定文化財)



きゆう まじまけ じゅうたく
旧馬島家住宅 (県宝)



たかとおかく
高遠閣 (国登録有形文化財)



高遠城大手門石垣 (国指定史跡)

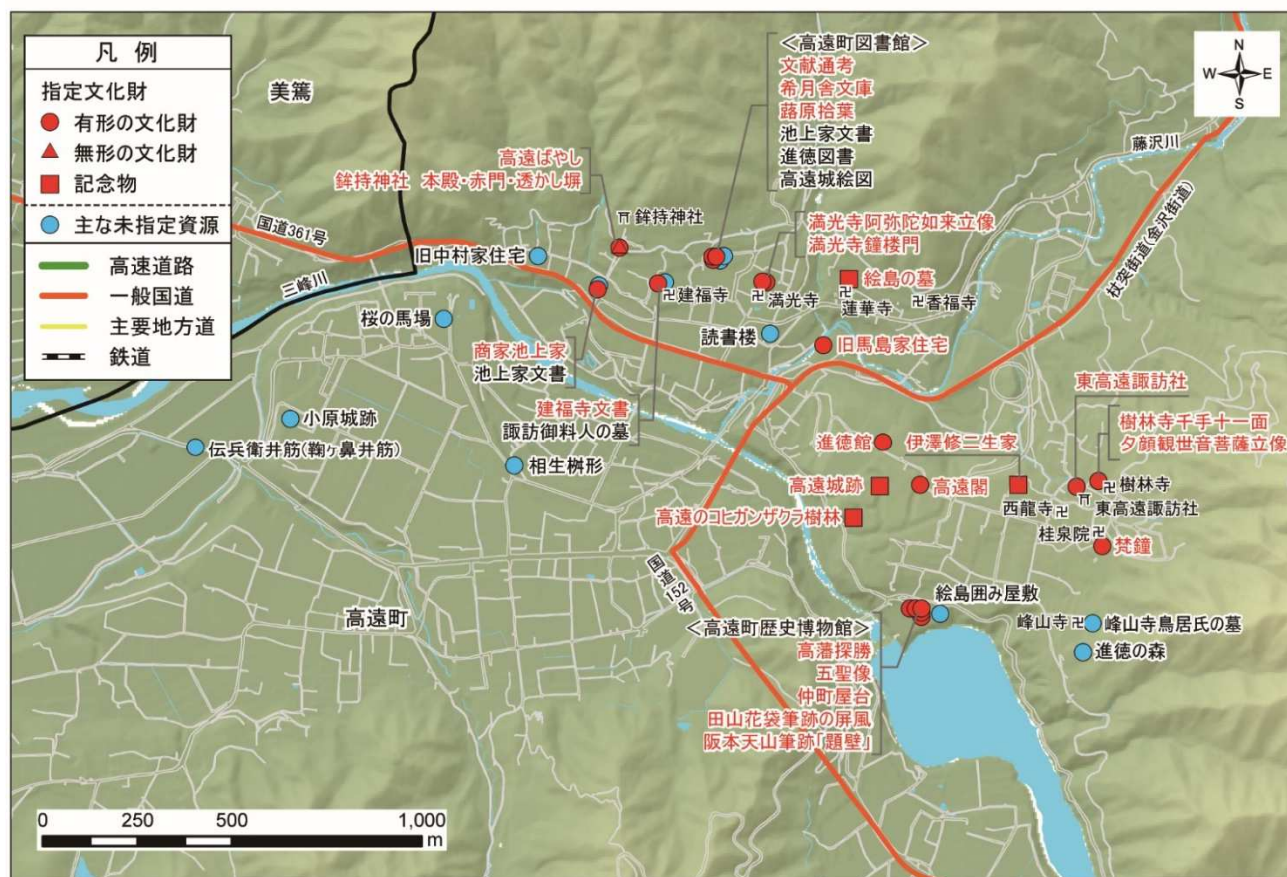


図. 構成資源の位置(城下町周辺地域)

5-2 関連文化財群4の保存・活用に関する課題

- ・ストーリーの核となる史跡高遠城跡は、桜の名所としての公園整備が進む一方で、城郭として分かりやすい史跡整備が進んでいません。城郭遺構の保存・活用・整備を進める必要があります。
- ・城下町周辺に多くの歴史文化資源が集中していますが、個人や法人所有のほか、博物館施設などで保存管理をしているものが多くあります。地域の歴史景観を保全しながら、博物館施設を中心に歴史文化資源の更なる活用を進める必要があります。
- ・観桜期を中心に、高遠城跡にある高遠のコヒガンザクラ樹林を活かした観光が行われていますが、豊富な歴史文化資源を活かした通年観光が望まれています。
- ・山城などの中世城館跡は、調査が十分ではなく不明な点が多くあります。戦国時代の地域社会を考え、高遠城と一体となった活用が進むように、調査が必要です。

5-3 関連文化財群4の保存・活用に関する方針

- ・高遠町地域のうち、特に歴史文化資源が集中する高遠地区(西高遠・東高遠)を、重点的に保存・活用を進める地域に設定します。
- ・史跡高遠城跡の計画的な保存・活用・整備を進め、確実に後世へ伝えるとともに、史跡高遠城跡を中核においた地域内の歴史文化資源の保存・活用を進めます。
- ・歴史文化資源の公開活用の拠点となる博物館施設の機能を充実させながら、歴史文化資源の保存や公開活用に努めます。また、博物館施設等において、地域に数多くある歴史文化資源の調査研究を進め、研究成果の公開を通して、地域の魅力アップにつなげます。

- ・デジタルコンテンツのほか、歴史文化資源を利用した魅力的なグッズの開発販売を取り入れるなど、観光施策と連携しながら、通年観光を目指し、より広い層に向けた歴史文化資源の公開活用を進めます。
- ・中世城館跡の歴史的価値を明らかにできるよう、縄張り調査などを行います。

5-4 関連文化財群4の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な 財源
				前期 R 7 5 10	中期 R 11 5 13	後期 R 14 5 16	市民・ 所有者	企業・ 団体	教育 研究	行政	
群4-1	城館跡調査	市内の中世城館跡の縄張り調査を実施する。	継続						○	◎ 教市	市費
群4-2	奉納武具調査	高遠藩主が領内の神社に奉納した武具について、伝存状況や関連史料の調査を実施する。	継続				○		○	◎ 教生	市費
群4-3 (措置27 再掲)	史跡高遠城跡整備事業	保存活用計画の策定、藩校進徳館修理、公有地化の推進などを実施する。	継続							◎ 教生	国費 県費 市費
群4-4	山城遊歩道整備	山城を見学するための遊歩道の整備や維持管理、誘導路の看板整備、城の全体図などの案内板を設置する。	継続				○	◎		○ 教生	県費 市費 団体等
群4-5	御城印の製作販売	市内城館跡の「御城印」を製作し、城館跡の周知と合わせて販売する。	継続					◎		○ 教生	企業

(本表は、第7章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第7章の措置番号とともに整理しています。)

6 関連文化財群5

6-1 ストーリーとテーマを構成する歴史文化資源

関連文化財群5 天竜川と三峰川 一河川とともにある暮らしと歴史景観一

ストーリー

伊那谷といえば段丘地形ですが、市内には河岸段丘の地形をうまく利用した遺跡があります。広い地域を一望できる段丘端部は、古墳や城館にうってつけの地です。広い段丘面には広大な土地を利用して、牧や飛行場が造られたこともありました。段丘面や広い扇状地の扇^{せんおう}央では水を得にくく、稲作には不向きでしたが、苦心して井筋^{いすじ}や用水が引かれた後は新田が広がりました。先人の遺した井筋は現在も私たちの生活を支えています。

「暴れ天竜」の異名を持つ天竜川ですが、その天竜川に注ぐ最大の支流が三峰川です。「三峰川を制する者は天竜川を制する」と言われるように、三峰川も昔から氾濫^{はんらん}を繰り返してきた暴れ川です。水の力を使った水運が盛んな一方、ひとたび氾濫すると流域では大きな被害が生じるため、人々は水害が起こらないように祈りを捧げながら、常に水害と向き合って暮らしてきました。江戸時代以降、土木技術を駆^く使^しして堤防が築かれ、昭和に入ってから三峰川流域に2つのダムが建設されました。川の水量をコントロールし、灌漑^{かんがい}や発電用水として利用する三峰川総合開発事業が現在も続けられています。

川が造った土地に生き、川を利用しながらも、常に水害と隣り合わせにあった人々の歴史は、悲しい出来事を繰り返さないためにも、後世に語り継ぎ、守っていききたい歴史文化です。

テーマの説明

中テーマ 1 河岸段丘の景観

西春近地域の山の中腹から市域を遠望すると、三峰川が浸食と隆起を繰り返して出来上がった、河岸段丘の美しい風景を見ることができます。伊那に暮らす人々は、こうした段丘地形の特徴をうまく活かした土地利用をしてきました。

〈小テーマ〉

・段丘端部

眼下を一望できる段丘端部は、時の領主にとって重要な場所でした。自らの権威を示す古墳、軍事上の要所に築かれた城館跡などからは、領域支配のために地形を上手に利用した人々の姿が浮かび上がります。

・段丘崖^{だんきゅうがい}

2段、3段と形成された河岸段丘の段丘崖には、斜面の崩落防止や防風などのために樹々が植えられ、樹林帯が形成されました。緑のベルトのような特徴的な景観を生み出しています。

・段丘面

段丘の最上段にある広大な段丘面は、古代から近代まで、広く平らな土地を必要とする場面で利用されました。

中テーマ 2 川を渡る

天竜川や多くの支流河川が流れる伊那では、暮らしの中で川を渡ることが多く、その方法もいくつかありました。私たちが普段意識せずに利用している橋にも、それぞれの歴史文化があります。

〈小テーマ〉

・かつての生活利用の足(渡船と橋)

生活のために人々は川を渡し、頻繁に対岸と行き来をしていました。増水ごとに流される可能性が高い場所には簡素な橋が架けられ、川幅が広い天竜川は渡船があったと伝わります。

・橋のある風景

市街地付近を流れる川には、大小様々な橋が架けられています。高遠市街地には江戸時代から架け替えられ続けてきた橋があり、また小沢川の下流に集中する橋の風景は、伊那市街地ならではの風景です。

中テーマ 3 水の力を利用して(水運)

かつて、水量豊富な天竜川や三峰川では、水の力を利用した水運が行われていました。水運は、人や物を運ぶための主要な交通手段の1つで、地域の生業と町の発展を支えてきました。

〈小テーマ〉

・天竜川通船

天竜川では、人やたくさんの物資を一度に運ぶために舟運が発達しました。往時の舟運を物語る資源が遺されています。

・筏下し

林業が盛んな伊那では、山の奥地で切り出した材木を効率よく運ぶために、水の力を利用していました。主要産業を支え、明治時代まで行われた伝統的な流送の名残を留める地名が各地に遺ります。

中テーマ 4 水との闘い

天竜川や三峰川は昔から「暴れ川」と呼ばれてきました。上流で大雨が降ると、水量は一気に増え、周辺は度々洪水被害に見舞われました。流域に遺る資源からは、「暴れ川」の被害を少しでも減らそうと、水と闘ってきた人々の姿が垣間見えます。

〈小テーマ〉

・知恵と技術で水を制する(治水土木)

川の決壊を防ぐための堤防や、決壊後に、溢れ出た水をスムーズに本流へ戻すための堤防など、川の特性や立地に応じて、知恵と技術を駆使した堤防が築かれました。

・三峰川総合開発事業

三峰川では、防災・減災のために水量を調節しながら、水を私たちの暮らしに役立てようとする取組が、昭和20年代から続けられてきました。私たちの暮らしに直結するこれらの取組は、今後も続けられていきます。

・祈る

人々は、人間の意思ではどうすることもできない自然の脅威を、神仏の力を借りて鎮めようと考えました。懸命な祈りの姿を伝える歴史文化が、市内各地に遺されています。

・復興・復旧・伝える

頻繁に洪水に見舞われた地域では、洪水によって村境が分からなくなることも多くあったため、速やかに復興が進むような知恵が伝わっています。

中テーマ 5 水を求めて(利水)

水が^{とぼ}乏しい段丘上の地域では、暮らしを豊かにするために、人々は水を引くことに命懸けで取り組みました。苦心の末に造られた井筋は大地を潤し、現在も私たちの生活を支えています。

〈小テーマ〉

・井筋^{いすじ}開発と^{つつみ}堤

市内には、江戸時代から明治時代にかけて造られた多くの水利遺産があります。高い土木技術を用い、莫大な経費と人手をかけて、水を得る努力を続けてきたことが分かります。

中テーマ 6 水と川が育んだ食文化

伊那市には、水と川が育んだ大地に根付く、地域ならではの食文化があります。段丘崖に生育する植物を使った生活道具が作られるなど、川に由来する多様な文化を見て取れます。

〈小テーマ〉

・食と食を支えた道具

伊那市には、井筋が潤した水田地帯の米を使って作るハレの日の^{ちそう}ご馳走や、川で採れる虫を美味しく食べる「ざざむし」などの郷土食があります。食材の収穫や調理に欠かせない、ざるやびくなどの道具は、段丘崖に生育する^{すずたけ}簗竹を使って編まれました。

テーマと構成する歴史文化資源

※表内の【国】は国指定文化財、【県】は県指定文化財、【市】は市指定文化財、【国登録】は国登録文化財、「」内の言葉は地名を表します。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
河岸段丘景観	段丘端部	古墳群 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)・東春近	天竜川左岸の段丘先端には、古墳が多数造られた。眼下を一望できる段丘上は、支配者の墓地にふさわしい場所である。
		城館跡 〈記念物・遺跡〉	市内全域	遠くまで見通せる段丘端部は、河川や街道を押さえる上で都合がよく、城館跡が築かれた。段丘崖は防御性を高めるのに適していた。
	段丘崖	段丘崖及び断層崖の斜面樹林 〈文化的景観〉	伊那(竜東)美篤・	天竜川とその支流沿いに連なる段丘崖には、緑の木々が帯状に連続し、特徴的な景観をつくっている。
	段丘面	笠原の御牧 〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	美篤笠原	平安時代、朝廷に献上する馬を飼育する牧が笠原にあったと伝えられる。段丘面の広大な平野が牧に適していた。
		旧陸軍伊那飛行場跡地 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)上の原	天竜川と三峰川がつくった広大な段丘面を利用し、戦時中に造られた飛行場の跡地には、弾薬庫や格納庫の跡が残っている。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
川を渡る	かつての生活利用の足 (渡船と橋)	渡船の伝承 〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	東春近渡場・西春近 沢渡・東春近田原・ 西春近下牧	殿島と沢渡間には鎌倉時代には渡船があり、橋ができた後も洪水で流される度に使われていた。田原にも対岸の下牧とを行き来するため渡船があった。
		大島橋・青島橋 〈民俗・無形の民俗文化財・伝承〉	美簗上大島・高遠町 上山田・美簗青島・ 東春近榛原	かつて三峰川には、丸太木を2本渡した上に砂利を敷いた簡素な橋が架けられていた。美簗から川向うの耕地や入会地に通うために欠かせない橋だった。
	橋のある風景	伊那大橋 〈有形・建造物〉	伊那(竜西)坂下・ 伊那(竜東)中央	昭和8年(1933年)に竣工した市内で最も古いコンクリート橋。木曾と高遠を結ぶ交通の要衝にあるため江戸時代から木造の橋が架けられていた。
		小沢川下流の橋 (小沢川鉄橋・伊那橋・ 明十橋・室渡場橋ほか) 〈有形・建造物〉	伊那(竜西) 荒井・坂下	小沢川下流部は中心市街地であり、古くから多くの橋があった。天竜川との合流点から800m 足らずの区間に10もの橋がある。
		御行馬橋・弁財天橋・天女橋 〈有形・建造物〉	高遠町西高遠	高遠城下にある代表的な橋で、三峰川や藤沢川に架けられている。江戸時代から何度も架け替えられながら、現在も身近な橋として使われている。
水の力を利用して (水運)	天竜川通船	天竜川舟着場 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)坂下	杖突街道と伊那街道を結ぶ天竜川の渡河地点には舟着場があり、舟で運んだ人や物資を荷揚げして、さらに陸送した。
		「入舟」 〈地名〉	伊那(竜西)坂下	通船が全盛期となった明治時代以降につけられた地名で、船の発着地「出舟」、「入舟」にちなんだ地名。
	筏下し	「木川」 〈地名〉	東春近車屋・中組・ 渡場	長谷の山から切り出され、三峰川を川下しで運ばれた材木を流した川が流れていた場所。
		「茱萸島(ぐみじま)」 〈地名〉	東春近渡場	長谷の山から切り出され、三峰川を川下しで運ばれた材木を一時保管する木挺場があった場所。
		「渡場」 〈地名〉	東春近渡場	天竜川と三峰川の合流点で、木挺場に上げておいた材木を天竜川に入れる「渡入れ」をした場所。材木の集積地の地名。
水との闘い	知恵と技術で水を制する (治水土木)	霞堤 〈有形・建造物〉	伊那(竜東)・美簗・ 富県・東春近・高遠町	決壊を防ぎ、洪水調節をする機能をもつ堤防で、本堤防の一部を切り、水を田畑の方へ逃がすように造られている。
		柵立堤防 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜東)野底	2つの支流が天竜川に合流し、洪水が頻発していた野底に造られた堤防で、江戸時代中期に阪本天山が築いた。
	三峰川総合開発事業	美和ダム 〈有形・建造物〉	長谷非持・溝口・ 黒河内	洪水調節、灌漑事業、発電事業のために三峰川に造られたコンクリートダムで、昭和34年(1959年)に完成した。
		高遠ダム 〈有形・建造物〉	高遠町勝間	洪水調節、灌漑事業、発電事業のために美和ダム下流に造られたコンクリートダムで、昭和33年(1958年)に完成した。
		春近発電所 〈有形・建造物〉	東春近田原	10キロ離れた高遠ダムから導水管で水を送り、発電を行っている発電所。
	祈る	【市】大聖不動明王 〈有形・彫刻〉	高遠町勝間	洪水が起こらないように、三峰川を鎮める祈りが込められた石仏。守屋貞治が刻んだもので、別名波切不動とも呼ばれる。
		【市】サンヨリコヨリ 〈民俗・無形の民俗文化財〉	美簗下川手・上川手・ 富県桜井	三峰川の右岸と左岸にある2つの天伯社で行われる祭りで、水難や災厄を防ぎ、豊作と集落の安全を祈る行事。

中テーマ	小テーマ	テーマの中心となる歴史文化資源 「主人公」 〈歴史文化資源の類型〉	歴史文化資源が 存在する地域 「ストーリーの舞台」	歴史文化資源の価値や 関連文化財群との関連性
水との闘い	祈る	【市】青島の千社参り 〈民俗・無形の民俗文化財〉	美簗青島	集落の水害よけや豊作などを祈るため、諏訪神社に祈願した後、市内各所の社や石仏に御札を貼る千社参りの行事。
		経塚 〈記念物・遺跡〉	東春近車屋	水害よけの祈願として、経文を埋めたと伝えられる場所。
		「般若島」 〈地名〉	美簗芦沢・高遠町下山田・伊那(竜東)下新田	水害よけを祈願するため、般若心経を唱えたり、大般若経を転読して埋めたりした場所と伝えられる地名。
	復興・復旧・伝える	【市】伯先桜と見通し桜 〈記念物・植物〉、 〈記念物・植物〉	伊那(竜西)西町 伊那(竜東)狐島	洪水で狐島村と西町村と荒井村の村境が分からなくなった際に、伯先桜と見通し桜を基準に測量を行ったと伝えられる。
		天竜川氾濫の狂歌 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	伊那(竜東・竜西)	天竜川を挟んで古町村、狐島村、山寺村、荒井村、西町村の5か村が堤防づくりや洪水の原因を争う様子を詠んだ狂歌。
		割地 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	三峰川流域	水害にあった農地を村全体で共有し、助け合いながら復旧に取り組む制度で、古くから行われていたと伝えられる。
水を求めて (利水)	井筋開発と堤	伝兵衛井筋(伝兵衛五井) 〈記念物・遺跡〉	長谷・高遠町・美簗・富県・東春近	伊東伝兵衛が築いた5つの用水のうち「鞠ヶ鼻井筋」、「お鷹岩井筋」、「大島二番井」、「小原井筋」の4つが市内にある。
		月蔵井筋 〈記念物・遺跡〉	高遠町荊口・山室・東高遠	山室川から取水し、月蔵山の中腹を通して東高遠まで引かれた井筋。江戸時代に武家屋敷の飲用水や新田開発のため開削された。
		六道一番井と六道の堤と桜 〈記念物・遺跡〉 〈記念物・植物〉	美簗笠原	六道原を開田するため、江戸時代に高遠藩の直営事業として引かれた井筋と堤(貯水池)で、堤は現在桜の名所になっている。
		木曽山用水(上戸・中条井) 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)・西箕輪	木曽の奈良井川上流の白川から引いた水を小沢川の上流に落とし、小沢川から同量の水を西箕輪の上戸、中条地域へ引いた用水。
		艶三郎の井 〈記念物・遺跡〉	伊那(竜西)荒井	横井戸を通じて多くの地下水を集め、一気に水を湧き上がらせる井戸で、御子柴艶三郎が造った。
水と川が育んだ食文化	食と食を支えた道具	五平餅 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	全域	炊いた米を半分ほどつぶし、丸く形を整えたものを串に刺して焼き、クルマ味噌や山椒などのタレをつけて食べる伝統食。
		ざざむし 〈民俗・無形の民俗文化財・食文化〉	天竜川流域	天竜川の浅瀬に棲むカワゲラやトビケラなどの幼虫は、貴重なタンパク源として昔から佃煮や揚げ物などにして食べられてきた。
		簗竹細工 〈民俗・無形の民俗文化財・生活文化〉	美簗上川手・下川手・青島	古くは段丘崖に生育するすず竹を原料として始められた竹細工で、ざるやびくなど、食生活や農作業を支える様々な製品が作られた。

テーマを構成する歴史文化資源



つやさぶろう い
艶三郎の井



はくせんざくら
伯先桜
(市指定文化財)



きゅうりくぐん い な ひ こうじょうかくのう こ あと
旧陸軍伊那飛行場格納庫跡



かさはら み まき
笠原の御牧推定地

凡 例
指定文化財
● 有形の文化財
▲ 無形の文化財
■ 記念物
○ 主な未指定資源
— 高速道路
— 一般国道
— 主要地方道
— 鉄道

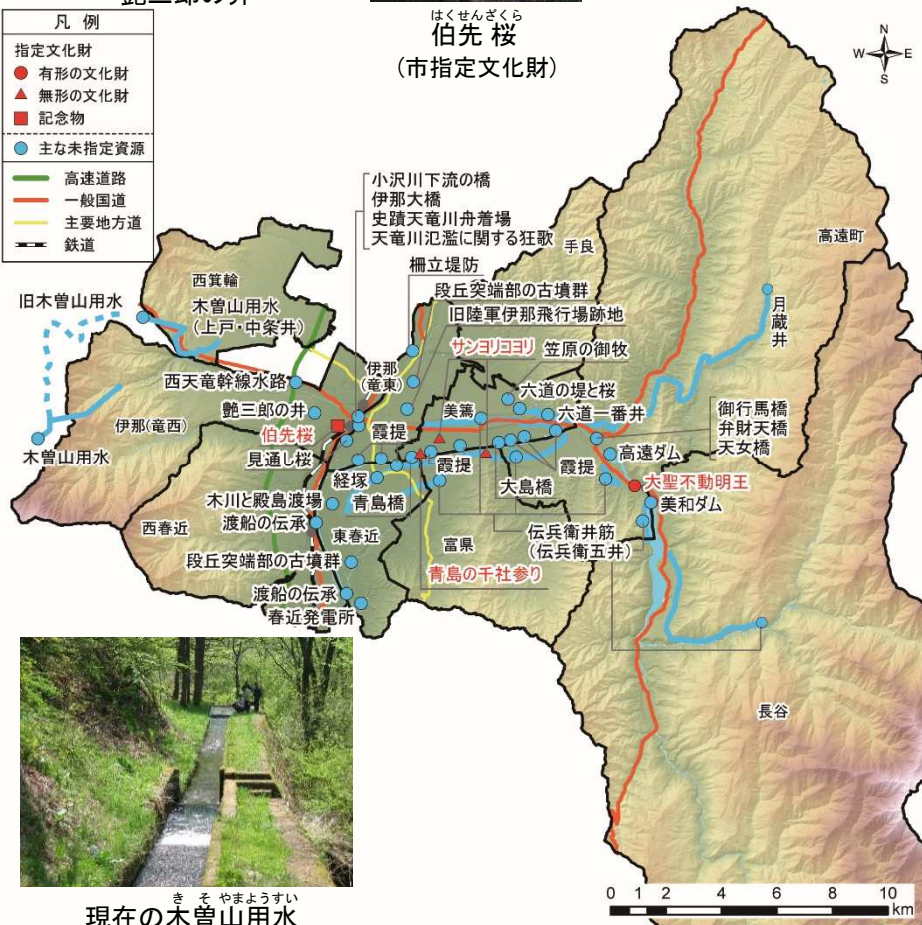


図. 構成資源の位置



き そ やまようすい
現在の木曾山用水
(上戸・中条井)の水路



み と お ざくら
見通し桜



き が わあと
木川跡



くるま や きょうづか
車屋の経塚



ざざ虫取り



西春近より河岸段丘を望む



でん べ え いすじ
伝兵衛井筋

6-2 関連文化財群5の保存・活用に関する課題

- ・河川に密接に関わる資源が多いほか、維持管理の主体が国、県、企業や団体など、多岐にわたります。各種団体と連携しながら保存・活用を進めることが求められます。
- ・災害に関わる地名、伝承、民俗文化財などがありますが、過去の教訓を活かし、市民が安心安全な暮らしを続けるためには、これらの歴史文化資源を確実に伝えていく必要があります。
- ・開発行為などにより、段丘上にある戦争関連遺跡や遺構の破壊が懸念^{けん}されます。

6-3 関連文化財群5の保存・活用に関する方針

- ・一体となった保存・活用が進むように、各種団体や組織との連携体制の構築を目指します。
- ・災害に関わる歴史文化資源は、防災施策に反映させるなど、過去の教訓を未来に活かす取組を進めます。
- ・戦争関連遺跡などの保存・活用に向けて、残存遺構のほか、戦争資料を把握する取組を進めます。

6-4 関連文化財群5の保存・活用に関する措置

番号	事業項目	事業内容	新規 継続 の別	計画期間			取組主体				主な財源
				前期 R 7 ～ 10	中期 R 11 ～ 13	後期 R 14 ～ 16	市民・所有者	企業・団体	教育・研究	行政	
群5-1	旧陸軍伊那飛行場跡地の保護	旧陸軍伊那飛行場跡地を戦争遺跡として保護し、発掘調査を行う。	新規				○	○	○	◎ 教生	市費
群5-2 (措置33 再掲)	歴史文化資源関係団体懇談会の実施	歴史文化資源の保存・活用に関わる団体組織同士をつなぐ懇談会を開催する。	新規				○	◎	○	○ 教生	市費
群5-3 (措置39 再掲)	地名調査成果の活用	地名調査によって把握された災害地名などを防災計画や防災施策に反映する。	継続							◎ 総務	市費

(本表は、第7章に掲載した措置のうち、関連するものの再掲を含みます。再掲した措置は、第7章の措置番号とともに整理しています。)